

道徳教育改善・充実のための

道徳教育 研修ハンドブック

～カリキュラムマネジメントを取り入れた校内研修を目指して～



平成27年3月
広島県教育委員会



はじめに

グローバル社会や情報化社会が急速に進展する中で、各分野で求められる専門能力を身に付けさせる前提として、人間として踏まえるべき倫理観や道徳性が重要になってきます。また、社会問題になっているいじめ防止の観点からも、社会性や規範意識、善悪を判断する力、思いやりや弱者へのいたわりなどの豊かな心を育む道徳教育の改善・充実が一層求められています。

このような中で、平成 26 年 10 月に、中央教育審議会から、「道徳に係る教育課程の改善等について」（答申）が示され、道徳の時間を「特別の教科 道徳」として位置付けるなど、道徳の教科化に向けた制度改正等の動きが始まりました。そして、平成 27 年 2 月には、文部科学省から小・中学校の道徳について、学習指導要領の改正案が公表され、社会全体で道徳教育に取り組む気運が高まってきているところです。

本県においては、平成 14 年に「豊かな心を育むひろしま宣言」を発信し、県民ぐるみで道徳教育を推進する気運の醸成を図ってきました。その後、県内の各市町に道徳教育推進協議会を設置、道徳教育を牽引する推進リーダーを育成、学習指導要領の趣旨等を踏まえた魅力的な教材の開発・活用などに取り組んできました。

平成 26 年度からは、「『道徳教育改善・充実』総合対策事業」により、推進校及び推進地域を指定し、その成果を県内に普及還元しているところです。本書は、その成果として推進校・推進地域の道徳教育教材作成委員の協力により作成された「道徳教育研修ハンドブック」です。

各学校においては、本書を活用し、学校の教育活動全体で行う道徳教育を推進し、児童生徒の豊かな心の育成に役立てていただくことを期待します。

平成 27 年 3 月

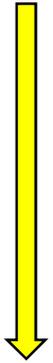
広島県教育委員会豊かな心育成課
課長 池田 彰夫

道徳教育こそ、カリキュラムマネジメントを！

1 道徳教育の基礎・基本

- (1) 学校段階に応じた道徳教育
 - ア 道徳教育のねらい
 - イ 道徳教育の進め方
- (2) 道徳教育の要としての道徳の時間
 - ア 道徳の時間の目標
 - イ 道徳の時間の特質
 - ウ 道徳的価値の自覚
- (3) 道徳教育と道徳の時間の関係
- (4) 道徳性と道徳的実践力
- (5) 道徳教育の内容
 - ア 四つの視点
 - イ 指導内容の重点化

道徳教育を進めるために



2 道徳の指導計画作成

- (1) 校長の方針を明確に示そう！
- (2) 道徳教育推進教師を中心とした協力体制を整備しよう！
 - ア 協力体制の充実
 - イ 道徳教育推進教師の役割
- (3) 道徳教育の全体計画を作成しよう！
- (4) 道徳の時間の年間指導計画を作成しよう！

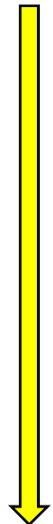
Plan 実態把握・計画立案のために



3 道徳教育に関する校内研修

- (1) 校内研修の進め方
 - ア 研修日・時間の設定
 - イ 校内研修を進める方法
- (2) 研修内容例
 - ア 年度当初
 - イ 年度途中
 - ウ 年度途中・年度末

D。授業実践のために



4 道徳の時間の校内研修

- (1) 事前研究をしよう！
 - ア 資料分析
 - イ 学習指導案の作成
 - ウ 学習指導案の検討
 - エ 模擬授業
- (2) 授業研究をしよう！
 - ア ビデオ記録の活用
 - イ 授業記録用紙の活用
- (3) 事後研究をしよう！
 - ア 研究協議会
 - イ ワークショップ型の研究協議
 - ウ 授業評価



Check 検証・評価のために



Action 改善のために



5 道徳教育改善・充実のための情報発信

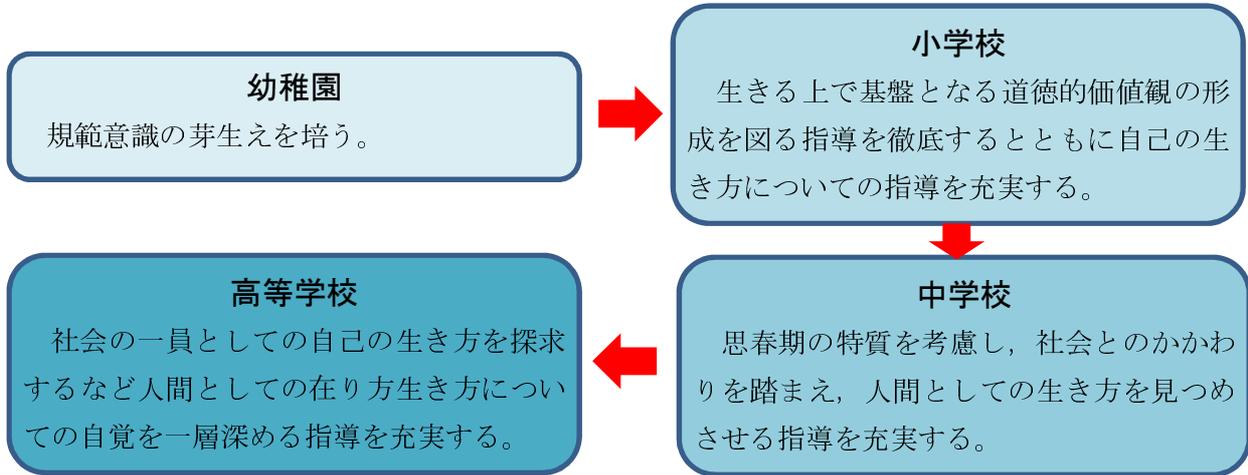
次年度へ向けて…

Plan 実態把握・計画立案のために

1 道徳教育の基礎・基本

(1) 学校段階に応じた道徳教育

道徳教育はすべての学校段階において一貫して取り組むべきものであり、幼稚園、小・中・高等学校の学校段階や小学校の低・中・高学年の各学年段階ごとにその重点を明確にし、より効果的な指導が行われるようにすることが必要です。



ア 道徳教育のねらい

小・中学校…豊かな心をはぐくみ、人間として生き方の自覚を促し、道徳性を育成することをねらいとする。

高等学校…豊かな心をもち、人間としての在り方生き方の自覚を促し、道徳性を育成することをねらいとする。

道徳教育を通じて育成される道徳性は、「豊かな心」はもちろん、「確かな学力」や「健やかな体」の基盤ともなり、児童生徒の「生きる力」を根本で支えるものです。



イ 道徳教育の進め方

小・中学校…道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳の時間はもとより、各教科、(外国語活動 ※小学校のみ)、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、児童生徒の発達の段階を考慮して、適切な指導を行わなければならない。

高等学校…公民科やホームルーム活動を中心に各教科・科目等の特質に応じ学校の教育活動全体を通じて、生徒が人間としての在り方生き方を主体的に探究し豊かな自己形成ができるよう、適切な指導を行う。



高等学校の道徳教育は、小・中学校と異なり道徳の時間が設けられていないので、小・中学校における道徳教育を踏まえつつ、教育活動全体を通じて指導するための配慮が必要です。

(2) 道徳教育の要としての道徳の時間

ア 道徳の時間の目標

各教科，外国語活動（※小学校のみ），総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら，計画的，発展的な指導によって，各教育活動において行われる道徳教育を補充，深化，統合し，道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考え（※中学校では，下線部が“道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚”となる）を深め，道徳的実践力を育成する。

イ 道徳の時間の特質

児童生徒一人一人が，一定の道徳的価値の含まれるねらいとのかかわりにおいて自己を見つめ，道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考え（※中学校では，下線部が“道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚”となる）を発達の段階に即して深め，内面的資質としての道徳的実践力を主体的に身に付けていく時間です。

ウ 道徳的価値の自覚

- 道徳的価値について理解すること（価値理解，人間理解，他者理解）



「こういうことって大切なことだな。」
「こんな生き方があるんだな。」
「こんな考え方ってとてもいいな。」

- 自分とのかかわりで道徳的価値をとらえること（自己理解）

「自分はどうかろうか。自分にもこんないいところがあるぞ。」
「自分はこんな考え方だけど，ああいう考え方って自分にはなかった考え方だな。」



- 道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題が培われること（自己発展）



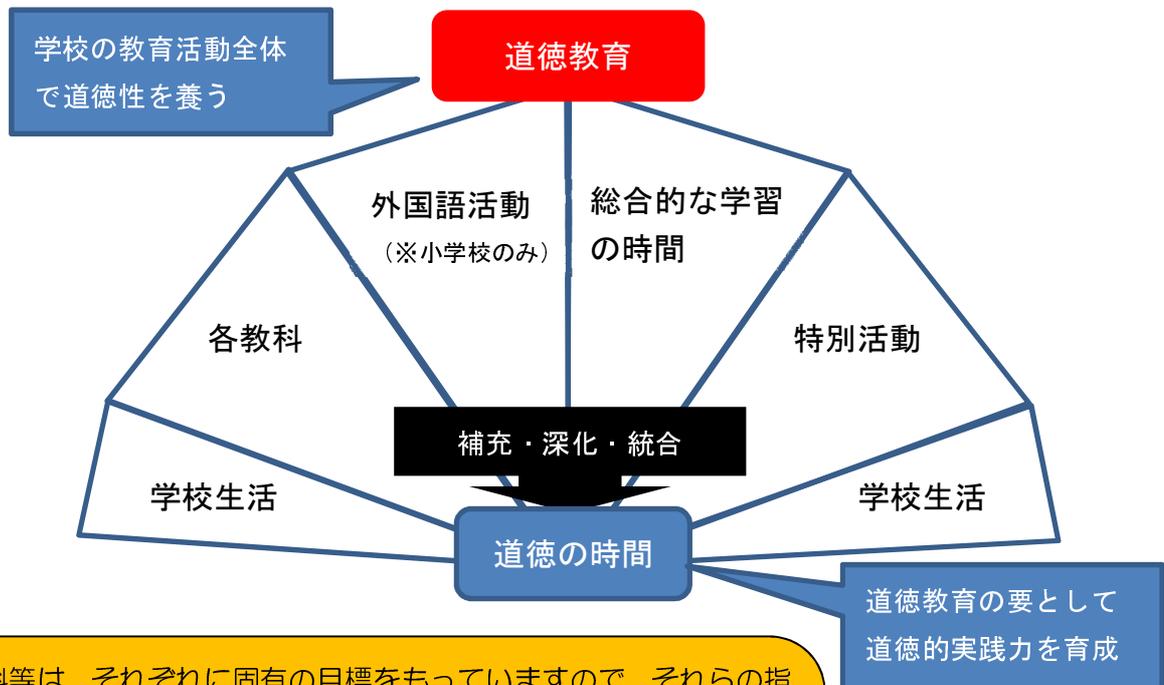
「こんな考え方を自分もできるといいな。」
「こんな生き方をしてみたい。」
「自分のこんな考え方や生き方を大切にしていこう。」

ここがポイント！

- 道徳の時間は，児童生徒がねらいとする道徳的価値を自己とのかかわりにおいてとらえることができるように指導方法を工夫しましょう。
- 道徳の時間は，教師自らが児童生徒と共に考え，悩み，感動を共有しながら，学んでいくという姿勢で授業に臨みましょう。

(3) 道徳教育と道徳の時間の関係

道徳教育は、学校の教育活動全体を通じて、道徳性を養うことを目標としています。道徳の時間は、道徳教育でとらえた道徳的諸価値を補充、深化、統合する計画的・発展的な学習により、道徳的実践力を育成する要となる時間として位置付くものです。



各教科等は、それぞれに固有の目標をもっていますので、それらの指導の中で行う道徳教育が、道徳教育としては断片的であったり、徹底を欠いたり、必ずしもそれだけでは、十分な成果をあげることができない場合もあります。したがって、その断片的な不十分さを補充し、掘り下げを欠いた不十分さを深化して、それらの指導を統合する道徳の時間がどうしても必要になってくるのです。



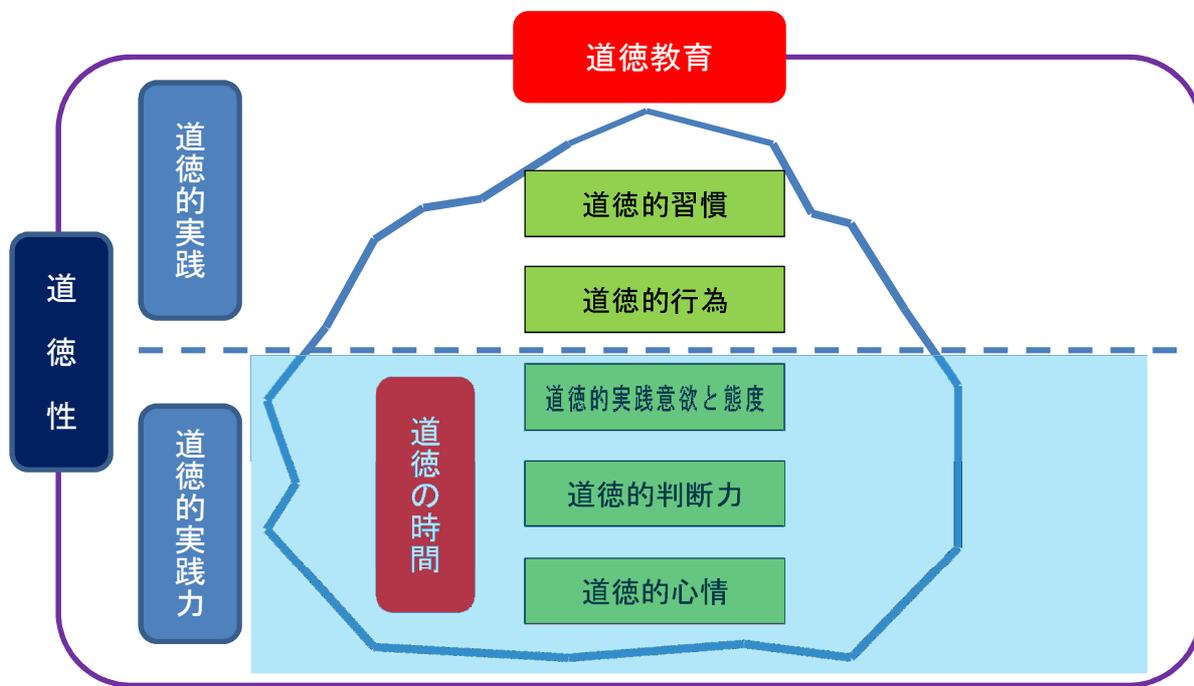
補充、深化、統合とは
 補充…学校の諸活動で考える機会が少ない道徳的価値について補う。
 深化…道徳的価値の意味について、理解を深める。
 統合…様々な活動で得られた道徳的価値を結び付ける。 ことです。

ここがポイント！

- 道徳の時間は、扇の「要」のように、各教育活動における道徳教育の要所を押さえて中心で留めるような役割をもっています。
- 道徳性をはぐくむために、道徳の時間はもとより、各教科、外国語活動（小学校のみ）、総合的な学習の時間及び特別活動においてもそれぞれの特質に応じて適切な指導を行いましょう。

(4) 道徳性と道徳的実践力

道徳教育で養う道徳性は、道徳的行為や道徳的習慣までも含めた人格的特性ですが、道徳的実践力は、将来出会うであろう様々な場面、状況においても、道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践することができる内面的資質のことです。



道徳の時間の指導は、児童生徒の行為の変容を直接的にねらいとするものではありません。教師の一方的な押し付けや単なる生活経験の話合いなどに終始することのないように留意しましょう。



ここがポイント！

○ 道徳的心情

道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情のこと。

○ 道徳的判断力

人間として生きるために道徳的価値が大切なことを理解し、様々な状況下で人間としてどう対処することが望まれるかを判断する力。

○ 道徳的実践意欲と態度

道徳的実践意欲は、道徳的心情や道徳的判断力を基盤とし、道徳的価値を実現しようとする意志の働きであり、道徳的態度は、それらに裏付けられた道徳的な行為への身構え。

○ 道徳的習慣

長い間繰り返しているうちに習慣として身に付けられた望ましい日常的行動の在り方。

○ 道徳的行為

それぞれの場面における、道徳的実践力に裏付けされた機に応じた行為。

(5) 道徳教育の内容

ア 四つの視点

道徳教育の内容については、小・中学校の各学年・学校段階において四つの視点に分けた内容項目として示されています。この四つの視点は、相互に深い関連をもっており、各学年・学校段階において、関連を考慮しながら、四つの視点に含まれるすべての内容項目について、学校の教育活動全体を通じて適切に指導していくことが大切です。

1の視点

主として自分自身に関すること

- 基本的な生活習慣・節度節制
- 希望・勇気・強い意志
- 自主自律・誠実・責任 など

2の視点

主として他の人とのかかわりに関すること

- 礼儀 ○人間愛・思いやり
- 信頼・友情 ○異性の理解
- 尊敬・感謝 など

3の視点

主として自然や崇高なもののかかわりに関すること

- 生命尊重 ○自然愛・動植物愛護
- 畏敬の念 など

4の視点

主として集団や社会とのかかわりに関すること

- 勤労・奉仕・公共の福祉 ○家族愛
- 愛校心 ○郷土愛 など

イ 指導内容の重点化

道徳教育を進めるに当たっては、児童生徒の発達の段階や特性等を踏まえるとともに、学校、地域等の実態や課題に応じて、学校全体及び各学年段階の指導内容ごとの重点化を図ることが大切です。

小学校		中学校
・自立心や自律心		・生命を尊重する心
低	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣 ・社会生活上のきまり ・善悪の判断 ・人間としてしてはならないこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・規律ある生活ができ、自分の将来を考える ・法やきまりの意義の理解を深める ・主体的に社会の形成に参画 ・国際社会に生きる日本人としての自覚
中	<ul style="list-style-type: none"> ・集団や社会のきまり ・身近な人々と協力し、助け合う 	
高	<ul style="list-style-type: none"> ・法やきまりの意義を理解 ・相手の立場を理解し、支えあう ・集団における役割と責任 ・国家・社会の一員としての自覚 	

社会的な要請や今日的課題を考慮し、次のような内容の指導について配慮が求められています。



ここがポイント!

- 重点内容については、指導時数を増やしたり、他の教育活動との関連を図った道徳学習プログラムにしたりするなどの工夫をしましょう。
- 内容項目を児童生徒の立場から具体的にとらえるために「私たちの道徳」を活用しましょう。

2 道徳の指導計画作成 ～「道徳教育の全体計画」と「道徳の時間の年間指導計画」～

道徳の指導計画については、学習指導要領「第3章道徳」の第3の1において、各学校においては、「道徳教育の全体計画と道徳の時間の年間指導計画を作成するものとする」とされています。したがって、学校では、校長が道徳教育の方針を明確にし、指導力を発揮して、全教師が協力して道徳教育を展開するため、道徳教育の推進を主に担当する教師（以下「道徳教育推進教師」という。）を中心として、「道徳教育の全体計画」とそれに基づく「道徳の時間の年間指導計画」を作成する必要があります。また、全体計画を各学年や学級で具体的に推進するための指針として「学級における指導計画」を作成していくことが望まれます。

(1) 校長の方針を明確に示そう！

道徳教育は、学校の教育活動全体で取り組むものであり、**校長は学校の道徳教育の基本的な方針を全教師に明確に示す**ことが求められています。そのためには、

校長は道徳教育の改善・充実の方向を視野におき、

- ① 児童生徒の道徳性にかかわる実態、
- ② 学校の道徳教育推進上の課題、
- ③ 社会的な要請や家庭や地域の期待などを踏まえ、

学校の教育目標とのかかわりで、道徳教育の基本的な方針を明示する必要があります。

「児童生徒の道徳意識調査」
「アンケート調査」
「教職員の意見」
「社会背景」等を参考にして、
実態把握をしましょう。



<道徳教育の重点目標の改善例（A小学校の例）>

改善前

人間尊重の精神を生かし、道徳的心情と道徳的判断力を高め、道徳性を養う。



漠然とした目標で、学校として何を重点に道徳教育を行うのが分かりにくい。そのため、各学年の道徳の重点内容項目もばらばらで、学校として意識統一した指導ができていない…。具体性のある目標に修正しよう。

教育基本法に示されている公共の精神等、日本人がもっていた「規範意識」を重視したい。

子供たちには、相手のことを思いやり、しっかりとした規範意識をもった人間に育ててほしい。

教育委員会が目指す「思いやりと規範意識のある人間」を尊重しよう。

本校の子供たちは、明るく元気でやる気もあるが、学校の約束や社会のきまりを意識して生活することが十分でない。

ポイントは、「思いやり」と「規範意識」！

2の視点、特に2-(2) 親切にかかわること
4の視点、特に4-(1) 規則遵守、公德心

改善後

人間尊重の精神を生かし、思いやりの心をもって、規範を尊重しようとする児童を育成する。

ここがポイント！

- 道徳の内容との関わりを明らかにして、道徳教育の重点目標を設定します。道徳の内容項目も参照して、分かりやすい目標にすると、学校の重点内容項目とのつながりが出てきます。

道徳教育推進教師と各部のリーダーが一緒になって道徳教育が推進できるような推進体制にしましょう。



(2) 道徳教育推進教師を中心とした協力体制を整備しよう！

ア 協力体制の充実

校長の方針の下、学校が組織体として一体となって道徳教育を進めるために、全教師が力を発揮できる体制を整える必要があります。協力体制をつくるに際しては、まず、全教師が参画する体制を具体化するとともに、そこでの道徳教育の推進を中心となって担う教師を位置付けるようにしましょう。

イ 道徳教育推進教師の役割

道徳教育推進教師が全体を掌握しながら、全教師の参画、分担、協力の下に道徳教育が円滑に推進され、充実していくように働き掛けていくことが望まれます。

<道徳教育推進教師の役割として考えられる事柄と具体的な行動例>

	事柄	具体的な行動例
ア	道徳教育の指導計画の作成に関する事柄	<ul style="list-style-type: none"> 道徳教育の重点目標を全教師が共通認識できる機会をつくる。 見直しの視点を示す。(実態から、重点目標から等) 指導記録を計画の見直しに生かせるように、指導記録を使った見直しの機会をつくる。
イ	全教育活動における道徳教育の推進、充実に関する事柄	<ul style="list-style-type: none"> 学校の重点内容項目を、機会(学校行事・体験活動等と関連して)を見つけては確認する。 年間1回以上、各教科、総合的な学習の時間等との関連、体験活動や地域とのつながり等を年間計画や別業をもとに見直す機会をつくる。
ウ	道徳の時間の充実と指導体制に関する事柄	<ul style="list-style-type: none"> 校内授業研、道徳教育研修の研修計画へ位置付ける。→記録の蓄積 ティーム・ティーティング(TT)授業を計画する。(ゲストティーチャーの活用も含め) 複数学年、学級による合同授業を計画する。 ゲストティーチャー一覧表を作成し、共有化を図る。 全職員で関わるような仕組みを作る。※(所属校内部会の活用)
エ	道徳用教材の整備・充実・活用に関する事柄	<ul style="list-style-type: none"> 教材、掲示物、板書記録の保存と活用を行う。(保管場所の明示、提出数の明示、機能的に活用できるように) 地域教材の開発に向けた計画、支援を行う。
オ	道徳教育の情報提供や情報交換に関する事柄	<ul style="list-style-type: none"> 研修報告の機会を確保する。 校内で紹介したい資料を収集する。 近隣の学校で研究授業に参加しあう。 HPに「道徳教育」のページを設ける。
カ	授業の公開など家庭や地域社会との連携に関する事柄	<ul style="list-style-type: none"> 授業公開、懇談会を企画する。(保護者参加型授業も含めて) 家庭、地域との連携方法を明確にする。 HPに「道徳教育」のページを設ける。 学校便り、学級便りに意図的に掲載するように働きかける。
キ	道徳教育の研修の充実に関する事柄	<ul style="list-style-type: none"> 校内授業研修、道徳教育研修の研修計画へ位置付ける。 模擬授業の実施を提案する。
ク	道徳教育における評価に関する事柄	<ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価へ位置付ける。 子供の道徳性を見取りについて、共通理解を進める。(上段キと関連) 記録の仕方を統一する。 保護者や外部の方の声を集める。

<道徳教育推進教師の活動計画（例）>



年度初めに、道徳教育推進教師としての活動の時期や内容を計画しておきましょう。

道徳教育の重点目標：自分自身と向き合い、誠実に生きていく子供を育てる。
自他の生命を尊重し、大切にしている子供を育てる。
集団の中で自分の責任を果たし、主体的に協力する子供を育てる。

道徳教育の指標：
・人の気もちがわかる人間になりたい。（肯定的回答 90%以上）
・人が困っているときはすすんで助けている。（肯定的回答 90%以上）
・児童会や学校行事などにおいて学校の一員としての役割や責任をしっかりと果たしている。（肯定的回答 90%以上）

月	〇〇市推進協議会	道徳教育推進計画	道徳教育推進教師が行うこと
4	第1回協議会 <6月18日> ○研究授業 ○道徳教育推進教師の役割について	・校内道徳教育推進委員会の確立 ・道徳教育推進体制の確立 ・全体計画・年間指導計画の確認 ・研究授業の計画、授業評価項目の協議 ・道徳用教材の確認 ・児童実態の共有 ・資料分析研修 ・道徳の時間についてのアンケート調査の実施 ・全体計画・年間指導計画の評価・改善の協議	・道徳推進委員会の活動計画提案 ・全体計画・年間指導計画の見直しの視点及び具体的な取組の提案 ・授業評価シートの作成提案 ・アンケート調査作成提案 ・教材の管理 ・研修だよりの発行 ・道徳の時間における指導・助言 ・アンケート調査の集計・分析 ・アンケート調査、全体計画・年間指導計画の評価等に基づく取組の分析・改善策の提案
5			
6			
7			
8			
振り返り	○ほぼ計画通り提案し、実行することができた。		
9	第2回協議会 <8月25日> ○模擬授業 ○道徳の授業づくりについて 第3回協議会 <11月7日> ○研究授業 ○講師講話	・アンケート調査 ・研究授業の実施 ・道徳参観日の実施 ・全体計画・年間指導計画の評価・改善の協議	・〇〇市道徳教育推進協議会での研修内容について情報伝達 ・事後研究をもとに授業改善策を提案 ・家庭や地域社会からの意見を分析・改善策の提案 ・全体計画・年間指導計画の評価等に基づく取組の分析・改善策の提案
10			
11			
12			
振り返り	○道徳参観日の効果的な実施のための提案を行うことによって、道徳参観日には、学校の道徳教育に関する方針や取組を発信するとともに、各学級で保護者等参加型道徳授業と意見交換を行い、家庭・地域との共通理解が図られた。		
1	第4回協議会 <1月28日> ○研究授業 ○今年度のまとめ	・研究授業の実施 ・道徳教育に関する取組実態の共有 ・アンケート調査 ・全体計画・年間指導計画の評価・改善の協議	・事後研究をもとに授業改善策を提案 ・道徳教育に関する調査（県）の回答作成 ・アンケート調査の集計・分析 ・アンケート調査結果、全体計画・年間指導計画の評価等に基づく取組の分析・改善策の提案
2			
3			
振り返り	○児童生徒の意識調査を実施・分析し、児童の実態に応じて取組の改善が図られた。 △道徳の時間における指導・助言について、計画的に十分に行うことができなかった。来年度は〇〇市道徳教育推進協議会での研修内容を踏まえ、研修計画に基づいて計画的に行いたい。		

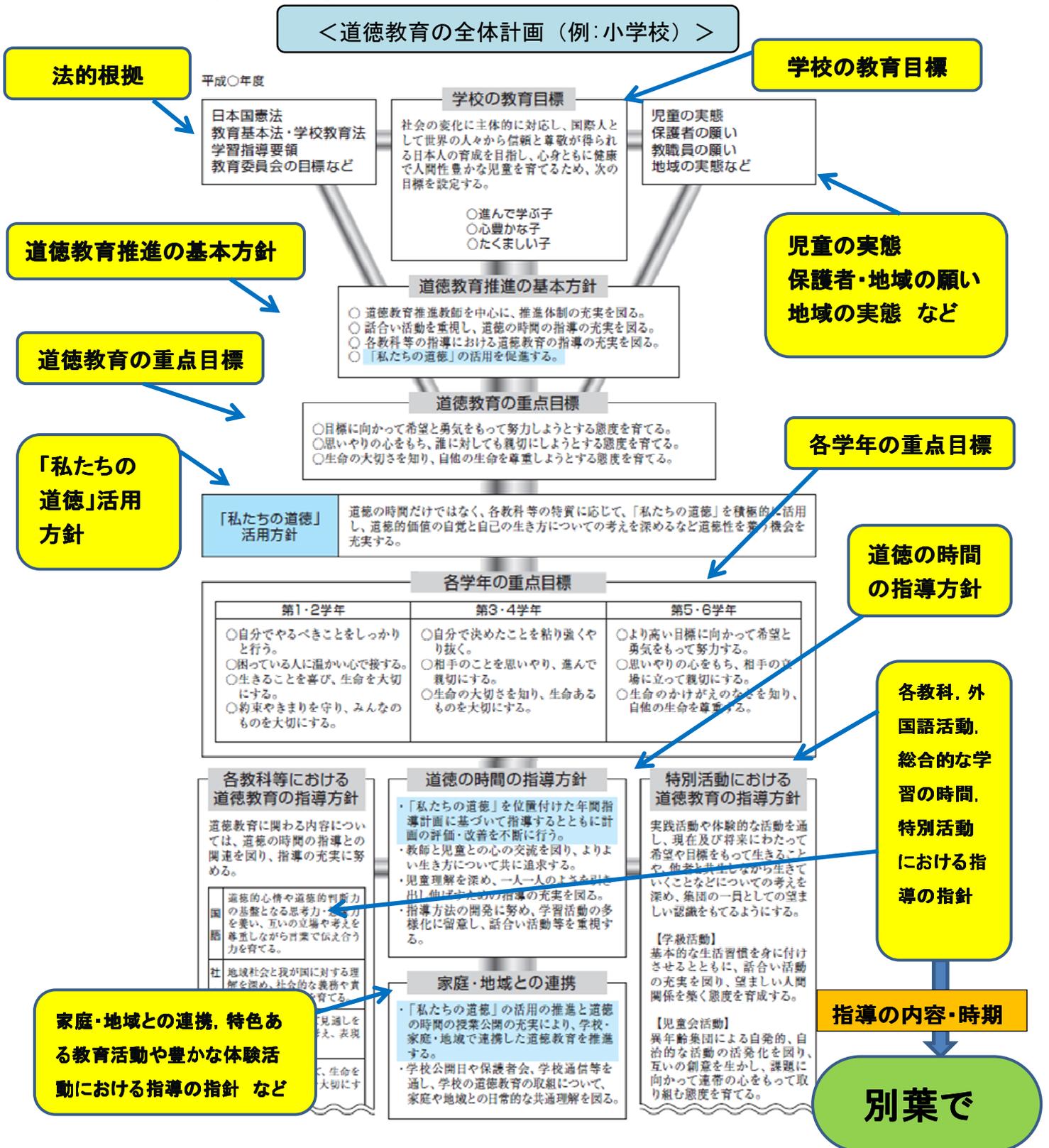
ここがポイント！

○ 道徳教育推進教師の活動計画を作成することで、活動内容や時期が明確になり、機能化が図られます。また、道徳教育推進教師が変わっても同様な活動が期待できます。

(3) 道徳教育の全体計画を作成しよう！

全体計画の作成に当たっては、理念だけに終わることなく、**具体的な教育実践に生きて働くもの**になるよう、体制を整え、全教師で創意工夫して作成することが大切です。

また、各教科等における道徳教育にかかわる指導の内容及び時期を整理したもの、道徳教育にかかわる体験活動や実践活動の時期等が一覧できるもの、道徳教育の推進体制や家庭や地域社会等との連携のための活動等が分かるものを別葉にして加えるなどして、年間を通して具体的に活用しやすいものとするのが考えられます。



< 道徳教育の全体計画 別業（例） >



より実効性の高い全体計画とするためには、各教科等における道徳教育の指導内容や時期を示した別業を作成して活用しましょう。

① 道徳の時間と各教科等における道徳教育に関わる内容及び時期を教科等別に示した例
(中学校第3学年)

各教科等と道徳の時間

四つの視点と内容項目「J」

道徳の内容	教科等					道徳の時間	
	国語	社会	保健体育	総合的な学習の時間	特別活動	資料	「私たちの道徳」(活用ページ)
一 自分自身に関する「J」	(1) 望ましい生活習慣、健康、節度		運動、食生活、休養と睡眠、生活習慣病と健康 (5月)		学級開き・組織づくり (4・10月)、生徒総会議案審議 (5・1月)	すてら思考の整理学 (5月)	導入P.10 終末P.13
	(2) 希望、勇気、強い意志	故郷 (9月)	喫煙、飲酒、薬物乱用と健康 (6月)	総合発表会 (12月)	目標づくり (4・10月)、二学期に向けて (7月)	メッセージ (松井秀喜) (4月)	導入P.16 終末P.17
	(3) 自主・自律、誠実、責任		自由権、社会権、社会の変化と「新しい人権」 (9月)	性感染症とその予防 (9月)		ネット将棋 (9月)	導入P.22～23 終末P.26
	(4) 真理愛、理想の実現		田中正造 (4月)			「忘れ残りの記」より (7月)	導入P.32 終末P.35
	(5) 向上心、個性の伸長、充実した生き方			器械運動 (10月)	生き方を考える (10～12月)	学校祭 (9月)	メッセージ (山中伸弥) (10月)
二 他の人との関わり	(1) 礼儀	敬語 (5月)	集団行動 (4月)			Vサイン (4月)	導入P.48～49 終末P.53
	(2) 人間愛、思いやり		世界の平和のために (12月)、よりよい地球社会のために (1月)			賢者の贈り物 (12月)	導入P.54～55 終末P.56
	(3) 信頼、友情		グンス (11月)			嵐の後に (11月)	導入P.60～61 終末P.62

* は、「私たちの道徳」の活用に関する箇所

指導する道徳の時間の内容項目について、それぞれの指導回数が分かりやすく、また、どの教科で、いつ、どのような道徳教育を行うのかなど、道徳の時間の役割（「補充・深化・統合」）を意識した指導につながります。



② 道徳の時間と各教科等における道徳教育に関わる内容及び時期を視点別に示した例(小学校第6学年)

		1 主として 自分自身に関する こと	2 主として 他の人との 関わりに関する こと	3 主として 自然や崇高なもの の関わりに関する こと	4 主として 集団や社会との 関わりに関する こと
4 月	道徳	【夢に向かって】 - (2) 「ヘレンと共にーア ニー・サリバン」		【自然を大切に】 3- (2) 「自然のめぐみを共 有して」	【よりよい学校に】 4- (6) 「校風をつくるのは 私たち」
	各教科等	●学校行事 「始業式」 最高学年としての始 まりに当たり、1年間 の希望と目標をもつ。 ●クラブ活動 4・5年生と協力作 業し、共通の興味・ 関心を追求する活動 を通して自分のよい 所を伸ばす。	●学級活動 「人間関係づくり」 友達や自分のよさに 気づき、よりよい学 級をつくらうとする。 ●児童会活動 「ふれあい給食・ふ れあい遊び」 学校のリーダーとし て下級生のことを考 え、仲よく交流する。		●児童会活動 「委員会活動」 全校のために意欲的 に活動する。 ●学校行事 「開校記念日」 〇〇小学校に愛着 をもつ。(P.161)
5 月	道徳	【節度、節制を心掛 けて】 1- (1) 「ホームステイ」	【友達との信頼】 2- (3) 「ロレンゾの友達」	【生命を尊重して】 3- (1) 「その思いを受けつ いで」	【みんなの役に立つ ことの喜び】 4- (3) 「小川笠船」
	各教科等				●学校行事 「運動会」 自分の役割を果たし、 行事をつくり上げよう とする。(P.140～141)
6 月	道徳	【努力を続けて】 1- (2) 「夢に向かって確か な一歩を」		【自然を守ろう】 3- (2) 「自然をこよなく愛 した人」	【差別のない社会 を】 4- (2) 「マザー・テレサ」
	各教科等			●理科 「植物の養分と水の 通り道」 植物の体のつくりと 働きについての考え をもつ。	
7 月	道徳	【自由とは】 1- (3) 「うばわれた自由」	【寛容・謙虚の心 で】 2- (4) 「ブランコ乗りとピ エロ」		【世界の人々とつな がって】 4- (8) 「ペルーは泣いてい る」
	各教科等				●総合的な学習の 時間「ワールドコミュ ニケーション」 世界の文化や生活を 知り、世界の人々と 交流しようとする。

四つの視点「1」「2」「3」「4」

月ごとに道徳の時間と各教科等における内容を

* は、「私たちの道徳」の活用に関する箇所

月毎に、道徳の時間と各教科等の単元や題材で、どのような道徳の内容を指導するのが明確になります。



③ 主な体験活動や実践活動と道徳の時間の指導の時期を示した例(小学校第2学年)

道徳教育 重点目標	自他の生命を大切にし、他者とよりよく生きようとする児童の育成
第2学年 重点目標	◎自分がやらなければならない勉強や仕事は、しっかりと行う。 1-(2) ・友達と仲よく助け合う。 2-(3) ・生きることを喜び、生命を大切に作る心をもつ。 3-(1)

学校・学年
の道徳教育
重点目標

主な体験活動や実践活動

道徳の時間

	主な体験活動や実践活動	道徳の時間	その他
4月	<ul style="list-style-type: none"> ●1年生を迎える会 《道徳の内容との関連》2-(2) 2年生としての自覚をもち、新しく入ってきた1年生を温かい気持ちで迎えようとする。 ●挨拶運動 《道徳の内容との関連》2-(1) 誰にでも気持ちのよい挨拶を心を込めてできるようにする。 	<p>2-(2) 思いやり・親切 『花のかんむり』</p> <p>2-(1) 礼儀 『たびに出て』</p>	<p>*保護者会 保護者に「私たちの道徳」や道徳教育の重点について説明する。</p>
5月	<ul style="list-style-type: none"> ●春の遠足 《道徳の内容との関連》4-(1) 約束やきまりを守り、安全に過ごすことができるようにする。 ●地域の清掃活動(クリーン運動) 《道徳の内容との関連》4-(2)、4-(5) 地域の一員として、地域をきれいにするために働く。 	<p>4-(1) 公德心・規則の尊重 『黄色いベンチ』</p> <p>1-(4) 誠実・明朗 『うそついちゃった』</p> <p>4-(2) 勤労 『森のゆうびん屋さん』</p> <p>1-(1) 節度節制・自立 『るっぺどうしたの』</p>	<p>*生活科 『町探検』</p>
6月	<ul style="list-style-type: none"> ●運動会 《道徳の内容との関連》1-(2)、2-(3) 自分がやらなければならない演技や競技を一生懸命行い、友達と協力して最後までやり遂げようとする。 	<p>3-(1) 生命尊重 『ハムスターの赤ちゃん』</p> <p>1-(2) 勤勉・努力 『小さな力のかみかざね 一二宮金次郎一』</p> <p>2-(3) 友情 『ゆっきとやっち』</p>	<p>*人権週間</p>
7月	<ul style="list-style-type: none"> ●児童集会(縦割り活動) 《道徳の内容との関連》2-(2)、2-(3)、2-(4)、4-(4) 友達と楽しんだり協力したりする活動を通して、下級生を思いやる心や上級生を敬う心をもつようにする。 	<p>2-(2) 思いやり・親切 『はしの上のおおかみ』</p> <p>2-(4) 感謝 『ごほうび』</p> <p>4-(3) 家族愛 『心がほわっとしたよ』</p>	<p>*夏季休業の事前指導 規則正しく安全に、家庭で協力して過ごせるように指導する。</p>

学校や学年の道徳教育の重点目標も入れておく、重点目標を意識して指導することが出来ます。また、道徳の時間と体験活動や実践活動との関連を意識した指導を行うことが出来ます。

* は、「私たちの道徳」の活用に関する箇所



ここがポイント!

- 道徳教育の全体計画や別葉を作成する際は、道徳教育推進教師一人が作成するのではなく、全教職員が作成にかかわるようにしましょう。

(4) 道徳の時間の年間指導計画を作成しよう！

年間指導計画は、道徳の時間の指導が、**道徳教育の全体計画に基づき、児童の発達段階に即して計画的、発展的に行われる**ように組織された全学年にわたる年間の指導計画です。具体的には、道徳の時間に指導しようとする内容について、児童生徒の実態や多様な指導方法等を考慮して、学年段階に応じた主題を構成し、この主題を学年別に年間にわたって適切に位置付け、配列し、展開の概要等を示しましょう。

<年間指導計画に明記しておくことが望まれる事柄>

- 各学年の基本方針
- 各学年の年間にわたる指導の概要
 - ア 指導の時期 イ 主題名 ウ ねらい エ 資料名(出典) オ 主題構成の理由
 - カ 展開の概要及び指導の方法 キ 他の教育活動等における道徳教育との関連
 - ク 「私たちの道徳」の活用について
 - ケ その他(校長や教頭などの参加及び教師の協力的な指導の計画、保護者や地域の人々の参加・協力の計画、複数時間取り上げる内容項目の場合の全体構想等)

<道徳の時間の年間指導計画(例)>

学年の基本方針		小学校第5学年 年間指導計画				ア 回・月・週
学年の基本方針	1 身近な集団の中で自分の役割と責任を主体的に果たせるようにする。 2 資料の中の特定場面や状況を自分との関わりで考え、自分の生き方についての自覚を深めさせる。				2	
イ 主題名	回	1	月	4	週	内容項目
	主題名	節度ある生活	内容項目	1 - (1)		オ 主題構成の理由
	資料名	流行おくれ	出典	文部省 読み物資料 「主として自分自身に関すること」		ウ ねらい
エ 資料名(出典)	主題構成の理由	生活を振り返り、自ら節度を守り、節制に心掛けることについて、主人公を通して考える。				ク 「私たちの道徳」の活用について
	ねらい	生活習慣の大切さを知り、自分の生活を見直し、節度を守り、節制に心掛けようとする態度を育てる。				
カ 展開の概要	展開の概要	1 児童の流行に関する話について話し合う。 2 資料「流行おくれ」を読んで話し合う。 (1) みどりと社会科見学の服装についての話をする真由美は、どんな気もちだったか。 (2) 母にたしなめられた真由美は、どんなことを考えたか。 (3) わたるに「ゲームの本を返して」と言われた真由美は、どんな気もちだったか。 (4) シーンとして自分の部屋を見回す真由美は、どんなことを思っていたか。 3 節度節制について、心掛けている事柄や実行している事柄の話合いを通して、自分の生活を考える。 4 生活習慣について、教師が日ごろ努力していることの話を聞く。				
振り返り	「私たちの道徳」の活用	学級活動や常時活動において引き続き、p16「自分の生活をふり返ってみよう」に記入することで、自分の生活を見直し、改善することができるようにする。				キ 他の教育活動との関連
	他の教育活動との関連	学習規律の指導(常時)、学級活動(2) 基本的な生活習慣の形成				
	振り返り					
	備考					

ここがポイント!

○ 振り返りや備考欄を設け、授業実施後に気づきを記入しておく、次年度に向けて、さらに加筆・修正することができ、授業改善につながります。

D。授業実践のために

3 道德教育に関する校内研修

道德教育を効果的に進めるためには、全教職員が道德教育及び道德の時間の重要性や特質について、理解を深めるとともに学校の道德教育の基本的な方針を共通理解し、協力して道德教育を展開するための道德教育に関する校内研修を充実させることが大切です。

高等学校においては、生徒の発達段階に対応した指導の工夫が求められることや小・中学校と異なり道德の時間が設けられていないので、道德教育の指導に係る共通理解を図る研修の設定などの配慮が必要です。



県内において道德教育の校内研修の実施については、表1の平成24年度道德教育実施状況調査を見ると小学校で約95%、中学校で約84%となっています。こうした研修の機会を生かして、授業研究で力をつけていくことや道德の時間の改善・充実につながるように、1回の研修をより一層充実させていくことが大切です。

また、図1の平成26年度市町道德教育推進協議会参加者アンケート結果における「自校の道德教育に関する研修の充実」に関する項目では、「研修成果を実践につなげやすくする工夫をしている（参加型研修等）」が最も低い数値となっています。

これらのことから、1回1回の研修が自校のニーズを踏まえた内容になっていたり、参加型研修を行ったりするなど、研修で得たものを実践に結び付けていく工夫が必要です。

表1 平成24年度道德教育実施状況調査結果

道德教育の校内 研修の実施	小学校		中学校	
	県	全国	県	全国
1回実施	27.0%	38.1%	38.5%	37.5%
2～3回実施	50.0%	27.7%	38.0%	32.1%
4回以上実施	18.2%	7.9%	7.8%	7.8%
実施していない	4.8%	26.2%	15.6%	22.6%

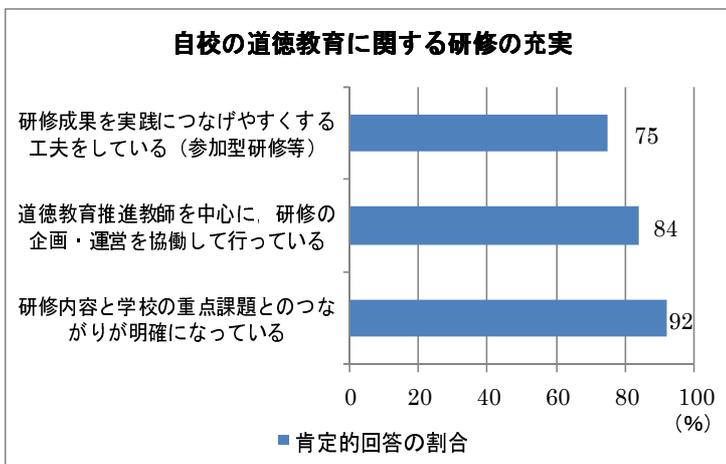


図1 平成26年度市町道德教育推進協議会参加者アンケート結果（広島市を除く22市町）

（1）校内研修の進め方

ア 研修日・時間の設定

年度当初から計画的に校内研修を進めていくためには、前年度末に次年度研修計画を作成する際、道德教育に関する研修を設定しておくことが大切です。校内研修は、全教職員の共通理解を図る場となるので、道德の理論研修や授業研究を設定しておくことで理論と実践が結びつき、指導力の向上にもつながります。研修を設定する際は、おおまかな内容や担当分掌等を明確にしておくことで、研修を進めやすくなります。

〈例〉研修計画（中学校：道徳教育に関するもの）

講師招へいについては、前年度のうちに予定を立て依頼をしておくともスムーズに実施できます。



月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
内容	○生徒の実態把握 → 重点目標等の共通理解		○授業研究（第三学年） ※講師招へい		○一学期の取組の振り返り → 二学期以降の方向性の確認		○授業研究（第二学年）	○これまでの取組の振り返り → 三学期に向けて		○授業研究（第一学年）	○今年度の取組の振り返り → 次年度に向けて	
	全体計画を基に、どのように道徳教育を進めていくのかを確認していきます。			生徒の実態や取組の成果・課題を整理し、二学期以降の取組につないでいきます。			生徒の実態や取組の成果・課題を基に、重点目標等の見直しをしていきます。					
担当分掌等	生徒指導部 研究部		研究部 （二学年会）		研究部		研究部 （二学年会）		研究部 （二学年会）		生徒指導部 研究部	

※水曜日の研修時間を予定していますが変更もあります。
※授業研究は5校時を予定しています。

イ 校内研修を進める方法

- (ア) 全教師が役割を分担し、全員で研修を進める方法
- (イ) 分掌組織によって進める方法
- (ウ) 道徳教育推進教師が中心となって進める方法
- (エ) 指導者を招へいして研修を進める方法
- (オ) 道徳の授業や道徳的実践の指導などを通して研修を進める方法

道徳教育推進教師一人で悩むのではなく、教務主任や研究主任の先生方と連携して進めましょう！



ここがポイント！

- 常に子供から出発して、指導に還元できるようにしましょう。
- 目指す子供像を設定し、共通理解を図りましょう。
※小学校は中学校の、中学校は高等学校の実態を聴くことで、良さや課題を把握でき、子供たちにどんな力をつける必要があるかが明確になります。
- 全教職員が意欲的に取り組める内容にしましょう。
- 記録をとり、次への研修に活かすことができるようにしましょう。
- 道徳教育推進教師一人で進めるのではなく、組織的な活動になるようにしましょう。
- 研修後、各自が明日からの授業に何を生かすか、振り返りを大切にしましょう。

例：「自分化宣言」

10/9校内研修 自分化宣言

私、は、

 **します。**

(2) 研修内容例

ア 年度当初

道徳教育の全体計画に関する内容



年度当初に全教職員で共通理解することで、重点を意識した取組につながります！

〈事例〉研修テーマ「生徒実態を踏まえた重点目標の確認」

〔当日の流れ〕

- 道徳教育推進教師と生徒指導主事が役割分担をし、運営していきます。
- 1 前年度までの生徒実態（良さや課題）をアンケート等の資料を基に共通理解を図る。
※前年度から勤務している教職員に具体的な状況話を話してもらうよう事前に依頼しておく。
- 2 今年度の道徳教育の全体計画を見ながら、「1」を踏まえた目指す生徒像を確認する。
- 3 道徳教育の重点目標の確認。
- 4 各学年の道徳教育の重点目標の確認。
- 5 各教科等で重点目標を意識した取組をしていくことを確認し、学期末に各教科等における生徒の様子（変容：とりわけ重点目標にかかわって）を交流する場を設定していることを伝える。

ここがポイント！

- 道徳教育推進教師が全体を把握しながら、全教師が主体的に参画できるように、役割分担を行ったり、事前に協力を求めたりして、道徳教育を円滑に推進していきましょう。
- 道徳教育は教育活動全体で行っていくものです。各教師がそれぞれの役割意識をもち、自らの役割を進んで果たせるように、全教師が共通の課題意識をもって進めていきましょう。
- 道徳教育の重点目標（各学年の道徳教育の重点目標）を常に意識できるように、例えば常に見えるところに貼るなど、意識付けしていきましょう。

平成 26 年度高等学校道徳教育推進協議会参加者アンケート結果によると、「自校では、道徳教育に関する研修を実施している」と回答した学校は 39.7%で、約 6 割の学校が実施していないと回答しています。各学校の実態や生徒の発達の段階などにふさわしい教育活動を行えるよう、校内研修の充実が求められます。



特に、全教職員による一貫性のある道徳教育を推進するために、生徒の実態等を踏まえた「育てたい生徒像」から、道徳教育の重点目標や各学年の指導目標を明確にし、各学校の特色が生かされるよう全体計画の具体化や評価・改善を図る必要があります。（平成 27 年度 広島県教育資料 42 ページ参照）

実際に、「私たちの道徳」のページを全教職員で開いてみることで、新しいアイデアが生まれたり、工夫が出されたりし、活用に拡がりが出てきます！

イ 年度途中

道徳教育に関する内容

〈事例〉研修テーマ「『私たちの道徳』の効果的な活用に向けて」



〔当日の流れ〕

○道徳教育推進教師が中心となり、教務主任や研究主任と連携し、運営していきます。

- 1 「私たちの道徳」について趣旨と特徴、構成等について確認をする。
- 2 「道徳の内容」の一覧表を活用し、「連携（地域・家庭）」と「各教科等」で活用できそうな「私たちの道徳」のページを記入していく（個人作業）。
- 3 小グループで記入内容を交流。
- 4 交流した内容や気付き等を、全体発表する。



「道徳の内容」の一覧表（中学校：一部抜粋）

	内容項目	連携(地域・家庭)	各教科・総合・特活
1 主として自分自身に関する事	(1) 望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け調和のある生活をする。		
	(2) より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ。		
	(3) 自律の精神を重んじ、自主的に考え、誠実に実行してその結果に責任をもつ。		
	(4) 真理を愛し、真実を求め、理想の実現を目指して自己の人生を切り拓いていく。		
	(5) 自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求する。		



研修内容を活かして、活用計画を作成し、職員室の見える場所に掲示したり、気付きを朱書きしたりするなど、改善を図ることで、より活用できるものとなります！

「私たちの道徳」の活用場面

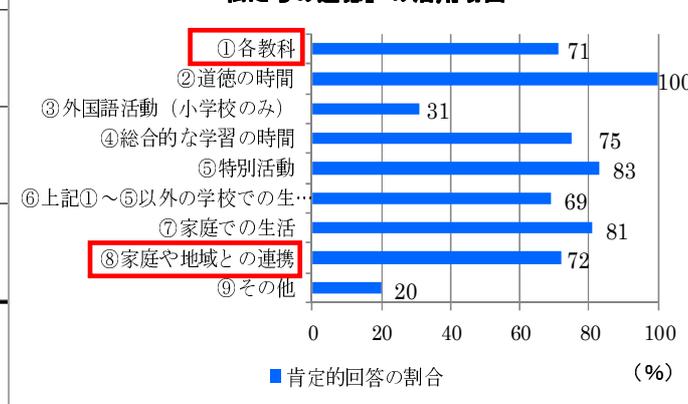


図2 平成26年度市町道徳教育推進協議会参加者アンケート結果（広島市を除く22市町）

図2の「『私たちの道徳』の活用状況」から、全ての学校において道徳の時間に活用されているものの、各教科や、家庭や地域との連携においては、7割程度にとどまっています。児童生徒が道徳的価値について自ら考え、行動できるようになることをねらいとした教材であることから効果的に活用することなどを通じて、道徳教育の一層の充実を図っていくことが求められています。

ここがポイント！

- 道徳教育の全体計画や道徳の時間の年間指導計画に「私たちの道徳」を位置付けるなどして、活用方針や活用方法などについての共通理解を図り、児童生徒の発達の段階を踏まえて計画的に活用していきましょう。
- 家庭や地域との連携に活用する際には、例えば学校・学級通信等で活用の仕方を伝えたり、保護者会などで「私たちの道徳」の活用の仕方を説明したりすることで、効果的な活用が促進されるような働き掛けをしていきましょう。

ウ 年度途中・年度末

〈事例〉 研修テーマ「道徳の時間の年間指導計画の評価・改善に向けて」



道徳教育の要となる道徳の時間が、より児童生徒の心に響くものとなるように、年度当初に確認した事項を学期ごとに全教職員で振り返る時間を設けることで、授業改善を図っていくことができます。また、年度末に行うことで、次年度につながる評価・改善を行うことができます。

〔当日の流れ〕

○道徳教育推進教師が中心となり、学年主任等と連携し、運営していきます。

- 1 客観的なデータを基に、児童生徒の実態を交流する。
- 2 年度当初確認した事項(★)について、各学年会で確認したものをもちより、全体で交流する。
- 3 質疑応答。
- 4 共通理解を図り、今後の工夫・改善に活かす。

★【年度当初 確認事項】

- ①各学年において、道徳の時間の年間指導計画に基づき、次週の道徳に向けて展開の概要や「私たちの道徳」の活用の仕方を明示したもの(参照例)で提案する(学年会内輪番制)。
- ②提案したものは、共有フォルダ「道徳」→「(該当)学年」に保存しておく。
- ③展開の概要等を追加変更した際は、朱書きしておく。
- ④児童生徒のワークシートには、授業についてのアンケート項目を入れておき、児童生徒の受け止めを反映させる。
- ⑤「成果と課題」には、ねらいにせまる中心発問であったか等について、具体的な児童生徒の反応から記入する(授業後)。

児童生徒自身が自分とのかかわりで深く考えられるよう、手立てが効果的であったかを見直すことができます。また、具体的な児童生徒の反応から授業を振り返ることにより、発問の構成を再検討するなど、授業改善に生かすことができます！



(参照例)

期日	○○月○○日(○)			
主題名	自主自律	内容項目	1-(3)	
資料名	ネット将棋	出典	「私たちの道徳」(文部科学省)	
ねらい	誠実に実行し、その結果に責任をもとうとする態度を養う。			
展開の概要	○どう考えて、僕はネット将棋でいきなりログアウトしたのだから、心から「負けました。」と言うことができるのは、どのような思いからだろうか。 ◎敏和のツッコミに明子と智子は笑ったが、僕が笑えなかったのは、どのようなことを考えているからだろうか。			
「私たちの道徳」の活用	学級活動や常時活動において引き続き、p22～27「自分で考え実行し責任をもつ」を活用し、誠実に他者に接することの大切さについて考える。			
他の教育活動等との関連	学級活動(自己理解と生活設計)			
〈授業についての生徒アンケート〉	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
今日の授業はためになったか。	%	%	%	%
自分の思いや考えをもち、振り返ることができた。	%	%	%	%
資料がよかった。	%	%	%	%
成果と課題				

(授業後)

期日	12月12日(金)			
主題名	自主自律	内容項目	1-(3)	
資料名	ネット将棋	出典	「私たちの道徳」(文部科学省)	
ねらい	誠実に実行し、その結果に責任をもとうとする態度を養う。			
展開の概要	○スポーツと将棋の違いについて確認をする。 ○どう考えて僕はネット将棋でいきなりログアウトしたのだから。 ◎心から「負けました。」と言うことができるのは、どのような思いからだろうか。 ◎敏和のツッコミに明子と智子は笑ったが、僕が笑えなかったのは、どのようなことを考えているからだろうか。 ○「私たちの道徳」p25に記入し、交流する。			
「私たちの道徳」の活用	学級活動や常時活動において引き続き、p22～27「自分で考え実行し責任をもつ」を活用し、誠実に他者に接することの大切さについて考える。			
他の教育活動等との関連	学級活動(自己理解と生活設計)			
〈授業についての生徒アンケート〉	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
今日の授業はためになったか。	20.0%	73.3%	6.7%	0.0%
自分の思いや考えをもち、振り返ることができた。	15.0%	63.3%	21.7%	0.0%
資料がよかった。	23.3%	70.0%	6.7%	0.0%
成果と課題	将棋をさしたことがない生徒がほとんどという実態である。そこで、導入においてスポーツと将棋の写真を提示し、将棋では「負けました。」と言って終わることや電子黒板でネット将棋の映像を提示し、全員が共通にイメージをもてたので、資料を手掛かりに考えることができた。授業アンケートでは、「授業はためになった」、「資料がよかった」の数値は高いが、自分とのかかわりで十分に深められなかったことから中心発問における予想される生徒の反応からさらに深める発問を考えておく必要がある。			

4 道徳の時間の校内研修

道徳の時間の指導においては、児童生徒一人一人が道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深めることで道徳的実践力を育成するという特質を十分考慮し、それに応じた学習の指導過程や指導方法を工夫することが大切です。それとともに、児童生徒が自らの道徳的な価値観の変化や成長を実感できるように工夫することが求められます。そのためにも、事前研究・授業研究・事後研究を行うなどして、道徳の時間の授業改善を図っていくことが大切です。

(1) 事前研究をしよう！

ア 資料分析

資料について、ねらいとのかかわりで道徳的価値がどのように含まれているかについて検討します。例えば、人物が登場する読み物資料の場合、資料中の登場人物の行為や心の動き、資料に対する児童生徒の感じ方や考え方などを分析し、どのようにすれば学習意欲を高め、道徳的価値の自覚を深めることができるかなどについて多面的に検討しましょう。

<資料分析の例>

- 1 資料を読み、場面ごとにまとめる。
 - 時間経過、場面の变化等で3～4の場面に分ける。
 - 各場面を短い言葉でまとめる。
- 2 場面ごとの登場人物の行為、心の動きなど、キーワードとなる表現を読み取る。
 - 会話文や副詞、形容詞などに注意する。
- 3 登場人物の行為やその奥にある心の動きに含まれている価値を押さえる。
 - 時間や場所の変化など、行間にも注意する。
- 4 主人公の行為、心の動きを支えている価値を考え、本時のねらいにかかわる中心的な価値、関連価値をはっきりさせる。
 - 資料の中に含まれている様々な価値を整理する。
- 5 本時のねらいにせまる中心場面を考える。
 - 授業展開の山場になる。
 - ねらいによって中心場面は変わる。(主人公の変容場面、葛藤場面、満足場面など)
- 6 中心発問を考える。
 - 複数の発問を想定し、児童生徒の立場から心の動きを予想する。
 - 児童生徒の多様な考え方を引き出せるような発問を考える。(書かれている内容や行動を問うだけの発問にならない)
- 7 中心発問を生かすための基本発問、補助発問を考える。
 - 基本発問は、精選し、時間をかけすぎない。

ここがポイント！

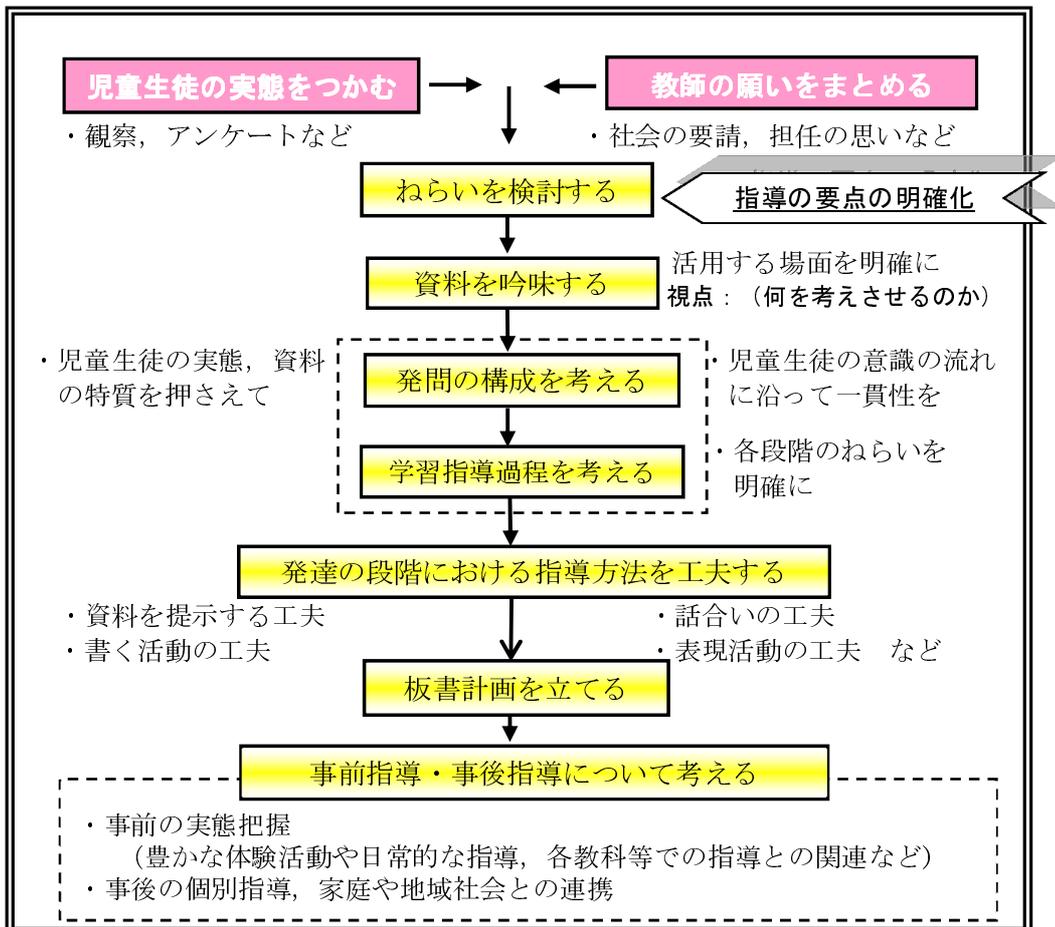
- 授業者の資料分析の深さが、授業を成功へと導きます。
- 児童生徒の実態を踏まえた、心の動きを予想しましょう。(同じ学習指導案でも、学級によって児童生徒の反応が違います)
- 教師の視点での分析とともに、児童生徒の視点でも分析しましょう。

イ 学習指導案の作成

道徳の時間の学習指導案は、主題のねらいを達成するために、児童生徒がどのように学んでいくのかを十分に考慮し、何を、どのような順序、方法で指導し、評価し、更に指導に生かすのかなど、学習指導の構想を一定の形式に表現したものです。学習指導案の形式に特に決まった基準はありませんが、一般的には次のような事項が取り上げられます。

- 1 主題名
- 2 ねらいと資料
- 3 主題設定の理由（主題観・価値観、児童生徒観、資料観・指導観など）
- 4 学習指導過程（導入、展開、終末など）
- 5 他の教育活動などとの関連
- 6 その他（評価の観点、資料分析、板書計画、場の設営など）

学習指導案作成の手順や留意点としては、次のようなことが考えられます。教科等との関連、児童生徒の実態や指導内容、さらに指導者の構想や意図により、様々に工夫しましょう。



ここがポイント！

- 学習指導案は、学校の共通財産ともいえるべきものであり、だれが見ても分かるように形式や記述を工夫し、学校として蓄積していくことが大切です。
- 学習指導過程は、一般的には導入、展開、終末の段階を設定しますが、固定化、形式化することなく、弾力的に扱うなどの工夫も必要です。

道徳学習指導案

指導者

- 1 日時 平成 年 月 日 () 第 校時
2 学級 第○学年 ○組 男子○名 女子○名 計○○名
3 主題名 「勤労の喜び」 4-(5)

主題名は、そのまま児童生徒に提示する必要はないものであるから、主題のねらいがとらえやすいように表現を工夫するとともに、できるだけ簡潔な表現にする。

- 4 ねらい 「～(主人公の気持ちを考える、行動を考えること)を通して、○○に気付き、○
○する心情(判断力、態度)を育てる。」

資料の特質を生かし、道徳的心情、判断力、実践意欲や態度を育成する視点や主題を児童生徒の実態に結びつけて考え、具体的に記述する。

- 5 資料名 「○○○」(出典)*出典を明らかに

- ・自作の場合は(自作資料)、改作した場合は(一部改作)と明記する。
- ・私たちの道徳や補助資料の活用があれば付記する。

6 主題設定の理由

- 主題観・価値観(ねらいや指導内容についての教師の考え方)

- ・本時に取り上げる内容項目について、学習指導要領解説道徳編に即しながら、自分なりのとらえ。
- ・ねらいを設定した理由やその時期に設定した理由、ねらいに込める指導者の願い。
- ・社会から要請されている今日的課題。などを記述する。

- 児童生徒観(児童生徒の実態と教師の願い)

- ・ねらいに関連する児童生徒の実態。(よい点、課題となる点)
- ・ねらいにかかわる実態調査の結果、ねらいの必要性。
- ・児童生徒に何をどのように期待するのか。などを記述する。

- 資料観・指導観(使用する資料の特質や取り上げた意図)

- ・資料の特質や取り上げた意図、どのような視点で資料を活用するか。
- ・主題観・価値観、児童生徒観を踏まえ、どの様に授業を展開していくか、指導の方策。
- ・指導体制、学習形態、学習活動の工夫。などを記述する

7 他の教育活動などとの関わり

本時の道徳の時間を生かすための事前や事後の指導の工夫などを記述する。

- ・各教科等との関連
- ・体験活動や日常的な指導との関連
- ・家庭や地域との連携 など

8 学習指導過程

(次ページを参照)

9 板書計画

ねらいにかかわって、指導の意図や資料の内容、児童生徒の感じ方や考え方の違いなどを視覚的に整理して生かすための工夫を検討する。

8 学習指導過程

段階	学習活動	主な発問と予想される児童生徒の心の動き (◎中心発問)	指導上の留意点 (☆評価の観点)
導入	1 ～した経験を話し合う。 (ねらいとする価値に気付く。)	○ これまでに～したことはありませんか。 ・ ……。 ・ ……。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: 100px;">実際に発問する言葉で書く。</div>	○ ～を提示し、本時の主題への関心・意欲を高める。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;">・アンケート結果の提示 ・絵や写真、実物の提示 等</div>
展開前段	2 資料「□□」を読んで、話し合う。 (1)～の時の、△△の気持ちを考える。 (2)～の時の、▲▲の気持ちを考える。 (3)△△が、～した時の理由を考える。 (4)△△のしたことについて考える。 (資料の活用によって、ねらいとする価値を追求・把握する。)	○ △△(主人公)は、どんな気持ちで～したのでしょうか。 ・ ……。 ・ ……。 ○ ▲▲(他の登場人物)は、△△のことを、どう思ったでしょう。 ・ ……。 ・ ……。 ◎ △△は、どんな考えで～したのでしょうか。 ・ ……。 ・ ……。 ○ △△のしたことを…うすべきだったのでしょうか。 ・ ……。 ・ ……。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: 100px;">中心発問が分かるようにする。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: 100px;">予想される児童生徒の発言を類型化して記述する。</div> * 児童生徒の実態と資料の特質を押さえた発問構成を工夫する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: 100px;">指導のねらいとのかかわりにおいて児童生徒の心の動きの変化などを様々な方法でとらえ、指導方法の改善に生かす。</div>	○ 場面絵やキーワードを提示することで、資料の内容を把握しやすくする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;">・スライド、紙人形等の活用 ・繰り返し提示、部分提示 ・場面絵の提示 等</div> ○ ワークシートを活用することで、自分の考えをまとめさせる。 ○ グループ活動を取り入れ、多様な考え方に触れることで、自分の考えを検討し、本時のねらいへ迫らせる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;">・書く活動 ・役割演技、動作化 ・ネームプレートの活用 ・グループでの話し合い 等</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: 100px;">左の各段階の学習活動に対応して、ねらいに迫るための具体的な手立てを記述する。 ※ ～するために…する。 ※ …することにより、～させる。 ※ ○○な児童生徒には、…する。 ※ ○○については、…を伝えて揺さぶる。</div> ☆ ～することの大切さに気付くことができる。(ワークシート)
展開後段	3 今までの自分を振り返る。 (自分の生活を振り返り、現在の自分の価値観に気付く。)	○ 今まで～したことはありませんか。どんな気持ちでしたか。 ・ ……。 ・ ……。 * 体験を通して感じたことや考えたこと、また日常の具体的な事柄を話題にするなど、資料に描かれた道徳的価値を自分の問題として受け止めて、深く自己を見つめることが可能になるよう発問を工夫する。	○ 写真を提示し、▲▲体験活動をした時の気持ちを想起することで、自分の生活を振り返らせる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;">・共通体験の想起 ・写真やVTRの提示 ・私たちの道徳 ・書く活動 等</div>
終末	4 私たちの道徳p○を読む。 (学習の整理・まとめをする。)	○ 今日の勉強で思ったことを浮かべながら、私たちの道徳○ページを読みましょう。 ・ ……。 ・ ……。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: 100px;">どんなことを感じて欲しいか、児童生徒の言葉として記述する。</div>	○ 私たちの道徳を読むことで、本時のねらいとする道徳的価値への実践意欲を高める。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;">・教師の説話 ・GTの活用 ・写真やVTRの提示 ・ことわざ、格言 等</div>

ウ 学習指導案の検討

学習指導案の検討を通して、授業者本人が授業に対する意図を明確にするとともに、参観者の授業を参観する視点を明確にすることができます。

<学習指導案の検討内容>

- 学習指導要領を正しく理解し、ねらいを設定しているか。
- 学校教育目標、研究主題を踏まえているか。
- 資料分析は適切か。
- 指導方法は効果的か、工夫改善は見られるか。
- 本時のねらい、学習展開、時間配分等は適切か。
- 評価の観点、評価方法等が作成されており、なおかつ適切か。
- ねらいが十分に達成できていない児童生徒に対する手立てが明確になっているか。 等

ここがポイント！

- 授業者は、検討してほしい課題や助言を求める点を明確にしておきましょう。
- 授業者は、検討する学習指導案を事前に配付し、特に検討を要する点については、項目をあげて分かりやすくしておきましょう。
- 研究主任は、場合によっては、会議室等に集まらなくても、参加者の意見が集約できるような方法を考えましょう。(例：回覧、メールなど)
- 参加者は、事前に資料とねらいから中心発問を考えるなど課題をもつてのぞみましょう。

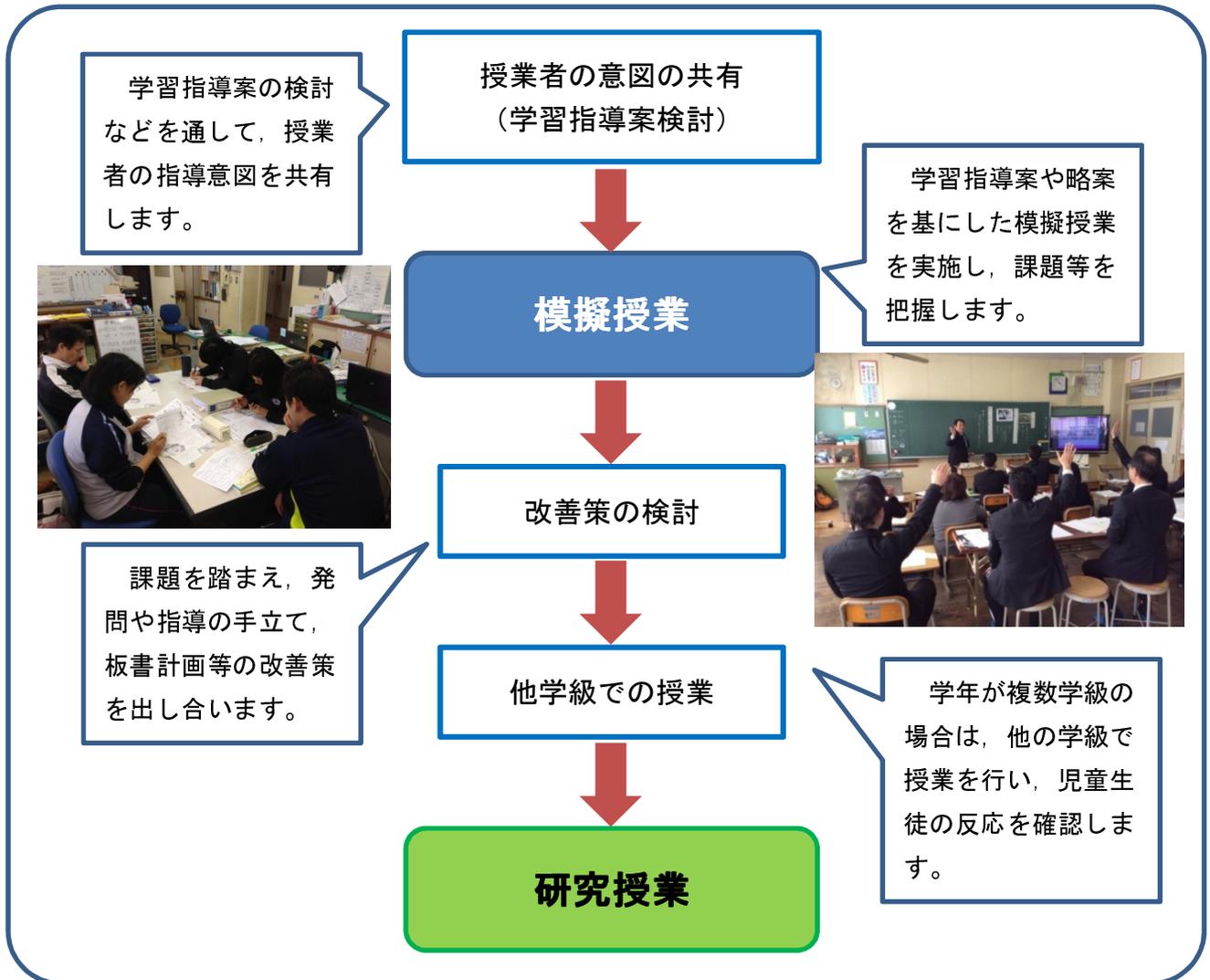
エ 模擬授業

学習指導案の改善点をさぐる方法の一つとして、模擬授業があります。模擬授業を行うことで、事前に学習指導案の問題点を具体的に把握し、課題を修正することによってより質の高い授業につなげることができます。また、模擬授業により、事後の研究協議会の柱を明らかにすることができ、協議内容の深まりにもつなげることができます。

<模擬授業の方法例>

- 授業者が、検討会参加者を児童生徒と見立てて授業を行う。
- 検討会参加者の一人が授業者となり、他の参加者を児童生徒と見立てて授業を行う。

<模擬授業を取り入れた研究授業までの流れ例>



1時間のすべてを模擬授業するのではなく、展開部分の発問構成や指導の手立てなど、部分的な実施も考えられます。

模擬授業の実施により、「授業者だけの授業」という意識から「みんなの授業」という意識をもつことができます。



ここがポイント！

- 児童生徒役の先生は、想定される反応を考えながら、児童生徒になりきって行いましょう。
- 第三者の立場で、客観的に参加する役も必要です。
- 模擬授業後に、ねらいや発問等について協議を行い、改善策を考えましょう。

(2) 授業研究をしよう！

授業を参観することで、児童生徒の様子や学級全体の雰囲気を共有した上で研究を深めることができます。授業研究を通して、教師の指導力の向上を図るとともに、授業改善に結び付けていくことが大切です。

<授業者の留意点>

- 計画した授業内容を念頭に置きながら、児童生徒の反応に対して柔軟に授業を展開しましょう。
- 個に応じた指導となるよう、児童生徒の意見や質問、つぶやきを大切に、授業展開に生かしましょう。
- 授業を振り返り、成果と課題を明確にしておきましょう。

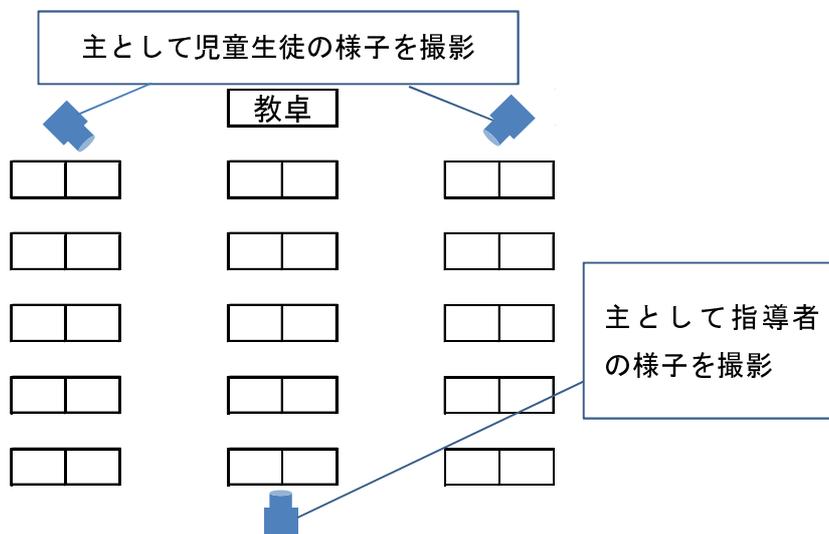
<参観者の留意点>

- 事前に示された研究協議の視点を踏まえて授業を観察しましょう。
- 役割を分担して必要な記録を取りましょう。

例：授業記録、ビデオ、板書、教師の発問・声掛け、児童生徒の反応等

ア ビデオ記録の活用

教室の後方に固定カメラを1台設置して、授業全体の様子を撮影するだけでなく、前方からの固定カメラや移動カメラで撮影することで、児童生徒の様子や表情をとらえることができます。



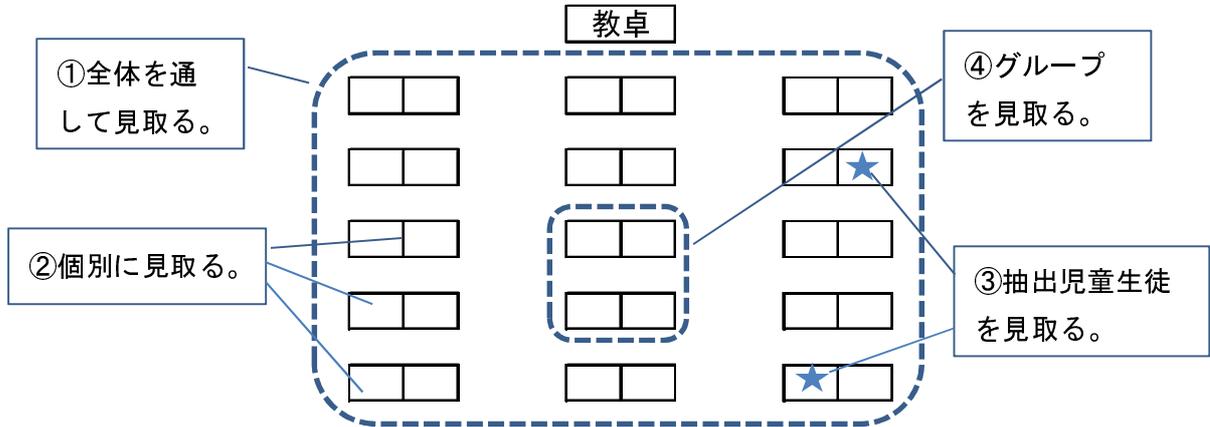
<ビデオ記録活用の利点>

- 授業のねらい等を具体的に説明したい場面で、ビデオを停止させて説明ができるので、授業者の意図が伝わりやすいです。
- 何度でも再生できるので、授業分析を深めることができます。
- 限定した場面を全員で見ることにより、協議が焦点化できます。
- 授業中には気付かなかったことや見過ごしたことなど、多角的に検討できます。
- 協議会を受けて、授業者が再度視聴することにより、振り返りを深めることができます。

イ 授業記録用紙の活用

授業記録用紙は、あらかじめ用意された項目にしたがって、指導者と児童生徒のかかわりや児童生徒の学びの様子を時系列に記録し、変化を見取ることができます。全体の印象と個々の事実との関係についてしっかり協議していくことが、検証の場面で大切になります。

<参観者による児童生徒の見取の例>

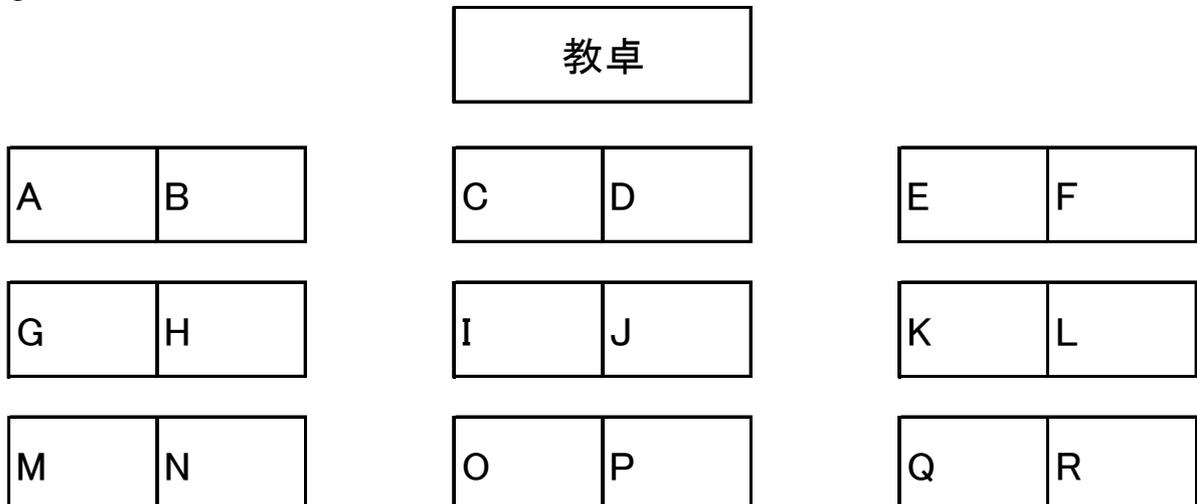


<記録用紙の活用例>

① 全体を通して見取る例

時刻	指導者の発問・指示・板書・支援等の様子	児童生徒の発言・活動等の様子	その他

② 個別に見取る例（座席表の活用）



③ 抽出した児童生徒を見取る例

- 全体を見ながら抽出した児童生徒を見取る

時刻	指導者・児童生徒の発言	観察対象の児童生徒	
		A	B

- 抽出した児童生徒を集中的に見取る

時刻	観察場面	指導者のかかわり	抽出児童生徒の姿	観察者の所見

④ グループを見取る例

担当（1）班

A児	B児	班員とのかかわり
C児	D児	

研究テーマにあった、記録用紙を工夫してみましょう。



(3) 事後研究をしよう！

ア 研究協議会

研究協議会においては、授業の結果をもとに協議し、授業の成果や課題を明確にする過程を通して、参加者全員の授業の質を高めていくことが大切です。

<研究協議会を充実させるためのポイント>

その1 「研究協議の視点」の明確化

研究協議の視点が全員に明確になるようにしましょう。また、授業参観では、その視点に基づいて協議できるようにするために、研究協議の視点を踏まえ、参観しておきましょう。

その2 授業者からの振り返り

授業者からの授業の振り返りや課題の提示は、具体的かつ明確にしましょう。授業者は、研究協議の視点に即して課題等を具体的に述べましょう。

その3 客観的な情報の必要性

ビデオによる記録、発問記録、板書記録等、授業についての客観的な記録をもとに協議しましょう。また、研修部は、研究協議の視点にかかわる研修資料を準備しましょう。

その4 研究協議会への主体的、積極的な参加の必要性

研究協議会の参加者は事実に基づいた具体的な発言を行いましょう。抽象的な発言に終始しては、効果がありません。また、参加者は協議を深めることにおいて同じ立場に立っていることを自覚し、積極的に発言するとともに、課題と思われる点について授業者や他の参加者に遠慮することなく発言しましょう。

その5 司会者の役割の重要性

研究協議を深めるためには、司会者の役割が重要です。司会者は、問題を整理し、協議の視点に沿って進行するよう工夫しましょう。指導・助言者を招聘した場合には、指導・助言の時間を適切に取ることができるよう時間配分に留意しましょう。

その6 「改善計画」の明確化

研究協議会のまとめでは、次の授業提案に向けての課題、改善すべき点等、次へのステップは何かを明確にし、確認し合ひましょう。

その7 中学校や高等学校の研究協議会の活性化

担当教科が違うからこそ、授業を参観する視点も多様化し、協議が深まるというメリットがあります。また、道徳では、指導方法の工夫改善等、教科が違っていても共通の協議の視点も設定できるという良さを生かしましょう。

<研究協議会（90分）の進行例>

時間	内容	詳細	ポイント
3分	進め方の説明	研究協議の目的, 流れ, 時間設定等の説明をする。	事前に研究協議の視点や進行表を配布し, 共通理解を図っておく。
5分	授業意図等の説明および質疑	授業者が次のような視点で説明する。 ・配慮したこと ・授業の成果と課題 ・意見や助言をもらいたいこと 参加者からの質問を受ける。	授業者は, 授業後に, 説明することをまとめておく。 参加者は, 意見は出さず, 質問のみ行う。
30~40分	グループ協議	グループで授業を分析し, 成果と課題, 改善策を明確にする。	付箋紙等を活用し, ワークシートにまとめる。 課題についての改善策を考える。
10~15分	全体発表	各グループの代表者が成果や課題, 改善策を簡潔に発表する。	他のグループと重複する内容は割愛する。
10分	改善策等の共有化	グループ発表で出された意見を整理し, 課題を改善するために取組むことを共有化する。	研究主任や進行役が, 成果と課題をまとめ今後の方向性を共有化する。 いつまでに何を行うか明確にする。
15~20分	指導助言	外部講師や管理職から指導助言を受ける。	外部講師がいない場合は, 管理職等がまとめを行う。
10分	振り返り	各自のこれまでの実践を振り返り, 自分の授業改善を考える。	明日からの授業実践につなげるために, 一文発表や一文宣言を行う。
協議後	授業者へのメッセージ	授業者へメッセージを送る。	授業者が研究授業をやって良かったと思えるように, 授業からの学び等, 肯定的なメッセージや意見を送る。

<効果的な研究協議会例>

グループ協議	ワークシートへのまとめ	全体発表	振り返り
			
付箋を貼付けながら成果や課題をグループで整理する。	成果と課題を明確にしたワークシートを作成する。	全体で意見交流を行い, 改善策を共有化する。	協議を受けて, 授業者が「明日からの取組」を発表する。

イ ワークショップ型の研究協議

参加者全員が主体的に参加し、成果や課題を明確にして、改善策の共通理解を図りながら協議を深めていくために、ワークショップを取り入れた研究協議を実施していくことが効果的です。協議の目的に応じて、ワークシートを工夫し、協議の効率化を図りましょう。

① 指導案拡大法（学習指導案に沿って分析できるワークシート）

	学習活動	主な発問と児童生徒の心の動き	指導上の留意点
導入	1 ○○○ 	○	○ ……
展開	2 ○○○ 3 ○○○ 	○ …… ◎	○ …… ◇
終末	4 ○○○ 	○ …… ○ …… ○ …… ○ …… ○	○ ……

【特徴】

- 拡大学習指導案の学習指導過程に、直接付箋紙を貼付ける。
- 学習指導案と実際に授業を対比しながら進めることができる。

【留意点】

- 意見が出やすい反面、焦点化するのに時間がかかる、視点を明確にして記入すると効率的である。

② 時系列法（指導と児童生徒の様子を時系列で分析できるワークシート）

	導入	展開	終末
成果			
課題			
改善策			

【特徴】

- 指導の過程に即しているので、初めてでも付箋紙を貼付けやすい。
- 成果と課題に分けて貼付けるので、成果や課題が明確になる。
- 改善すべき点、次へのステップが何かを明確にすることができる。

【留意点】

- 体験活動など、他の教育活動との関連まで視点が広がりにくいことに留意する必要がある。

③ マトリクス法（協議の視点に沿って分析できるワークシート）

	視点 1	視点 2	視点 3
成果			
課題			
改善策			

【特徴】

- 事前に協議の視点を定めておき、その視点について成果と課題、改善策が協議できる。
- 全員で改善策まで考えるので共有化が図られ、今後の実践につながりやすい。

【留意点】

- 同じ内容に対して評価が分かれる場合、付箋紙の置き方を工夫すると効率的である。

④ 座標軸法（児童生徒と教師の視点から分析できるワークシート）

	<p>【特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 授業の全体を捉えたい場合に有効である。 ○ 横軸は、児童生徒の姿と教師の指導、あるいは、協議の視点などを置き、焦点化した分析ができる。 <p>【留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 改善策を考える場合には、新たに大きな付箋を貼付けるなど工夫する必要がある。
--	---

これらのシートを活用することで、授業を視覚的に構造化して分析することができます。

また、授業の欠点を指摘するのではなく、授業者の立場に立って授業を改善するにはどうすることが望ましいか、お互いに意見を出し合ひましょう。



ここがポイント！

- 研究協議では、発表しやすい雰囲気づくりをしましょう。
- ワークシートを効果的に活用しましょう。
- 今後の方向性を明確にし、全員が共通認識をもって取り組めるようにしましょう。
- 研究協議のまとめを発行しましょう。

ウ 授業評価

授業評価表を作成し、利用することにより、授業全体をバランスよく評価でき、問題点を明らかにすることができます。

ここがポイント！

- 評価項目に、授業者が希望する視点なども入れてみましょう。
- 授業者も自己評価を行い、参観者の評価と比べることで、より具体的な授業改善に生かしましょう。
- 研究内容などを踏まえ、評価項目を設定し、研究協議の焦点を絞り、協議を活性化しましょう。

<授業評価表例>

道徳授業チェックシート		とても まままあ あまり 全く			
1	本時のねらいは達成された。	1	2	3	4
2	生徒は自分の考えを表現（話す・書くなど）した。	1	2	3	4
3	生徒は資料や教師の考えにふれて考えを深めた。	1	2	3	4
4	生徒は他の生徒の考えにふれて考えを深め合った。	1	2	3	4
5	ねらいや教材は発達段階をふまえたものだった。	1	2	3	4
6	教材はねらいに迫るために適切だった。	1	2	3	4
7	教材は生徒が興味関心を持つものだった。	1	2	3	4
8	発問はねらいに迫るために適切だった。	1	2	3	4
9	発問は様々な考えを引き出すものだった。	1	2	3	4
10	少人数の話し合い活動は効果的だった。	1	2	3	4
11	考える時間は十分にあった。	1	2	3	4
12	話し合う時間は十分にあった。	1	2	3	4
13	書く時間は十分にあった。	1	2	3	4

感想・気づき

研究主題をもとに、授業評価の観点を吟味して、評価表を作成しましょう。



研究授業参観の視点		とても	だいたい	あまり	まったく
<p>()年 <u>道徳の時間</u></p> <p>1 あてはまる欄に○を記入してください。</p>					
○資料について	①児童の心に響く資料だった。				
○発問について	②中心発問はねらいに迫るものであった。				
	③児童の心をゆさぶる補助発問(ゆさぶり発問)は効果的であった。				
○授業展開について	本時の内容に適した導入だった。				
	思考の流れやつながりの分かる構造的な板書だった。				
	机間指導は目的をもって(その後の授業展開を考え)行っていた。				
	意図的指名を効果的に取り入れて発表させていた。				
	終末は価値を心にとめるための適切なものであったか。				
	TTの授業は効果的なものであった。				
○自分とのかかわり	④自分を見つめさせる手立てがあった。				
○友だちとのかかわり	⑤自分の思いを伝えることができた。				
	⑥友だちの発表を聞いて考えを深めることができた。(関わり発言・ワークシート等)				
<p>2 授業についての意見・感想等を書いてください。 このような改善方法がある！というアドバイスの視点でお願いします。</p> <div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div>					

5 道徳教育改善・充実のための情報発信

研究協議会で出された改善策を日々の授業や次の授業研究の計画に取り入れ、生かしていくことが大切です。また、校外の道徳教育に関する研修会等で得たことは、個人一人のものとしてせず、積極的に情報発信することで、学校全体の道徳教育の充実を図ることにつながります。

〈事例1〉 授業研究後の研究だより



授業研究後に、成果と課題を整理し、ポイントを絞って全員が共通して取り組むことを提示すると効果的です！

取り組んでいくこと(太字部分)を明確にしましょう！

高志
平成26年6月3日
NO. 1

研究だより

第1回 道徳の時間授業研究 (6年生編)

第1回目の授業研究が終わりました。
今回はたくさんの指導主事の先生方にご指導していただくことができました。指導していただいたことからの取組に生かしていきたいと思っております。

※先日行った児童意識調査、教職員意識調査の結果は、25年度→26年度アンケートの中にありますので、ご覧ください。

(1) 主題名等
「誠実に生きる」 内容項目1-(4)
「こんな思いはもういやだ」 出典(かがやけみらい 学校図書一部改作)

(2) 研究協議
Ⅴ」後によって成果・課題・改善策について協議しました。

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 反省の工夫(資料提示と共に既示、生徒人柄の準備が考え手がかかりになった、心の中を視覚的につかむことができた。) ・ T1、T2の役割分担のよさ(評価表を持っての別開指導による児童の見取り)
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ かかわり、つながり発言によって、考えを深めさせる。 ・ 切り返し発問、橋さぶり発問(児童の発言の後、指導者が繰り返す。「～だね」「それで」「どうして」「それについて」児童同士がつながられるように) ・ T1、T2の役割分担 ・ 方法論にならないように(どうすればよかった)
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ かかわらせるために児童の発言の何をだれが拾うのか?児童同士をつなげさせる受け答え(言葉からの発表のさせ方、発言を児童に返していく問いかけ、自分の思いを言う時に理由付け) ・ 中心発問で共通をまとめる。

(人)

	1	2	3	4
◎資料について	1	9	0	0
◎資料を協議はねらいに活かすものがあった	1	8	1	0

道徳教育 6月はこれを!

☆ TTをフルに活用する!

「役割演技する」「互いに突っ込む」など、工夫していきましょう。TTの一番の効用は「教師の真剣さを見せる」ことにあるとも聞きます。アイデアを出し合い魅力ある授業に繋がれましょう!

☆ グループの話し合いのルールを作る!

道徳の時間だけでなく、どの教科の授業にも使えるルールを作り、生徒にも示して活用しましょう。(教務部・研究部を中心に進行中です。)道徳では、話し合ったあとクラス全体に広げ、深めていくことも次なる課題です。難しいですが、チャレンジしましょう!

☆ 研究公開に向けてベースの準備!

研究公開では全クラス授業公開です。したがって、TTではなく、担任の先生一人の授業になります。教材については、各学年で自作資料一点と、副読本・文科省資料・広島県資料などからの一点になります。自作資料三点については、 が原案を出す予定にしています。その他の三点(各学年一つずつ)の教材の選択を意識しておいてください。

授業の作り方と指導案の書き方について、6月18日(水)の校内研修会で研修する予定にしています。毎週の道徳の時間の際にも、道徳の時間のねらいと中心発問、指導過程の流れなどを意識しておいてください。

明日からの授業に生かせる工夫を行いましょう!

配付する際に、説明を一言添えると効果的です!



〈事例2〉 道徳教育推進だより(教職員向け)



道徳教育推進教師が国や県の動向を踏まえ、定期的に情報発信していきましょう！

道徳教育の全体計画(別葉を含む)や道徳の時間の年間指導計画に反映させていきましょう。

研究推進だより

平成26年10月17日(金)
第1号
府中町立府中中学校
文頁

平成26年度も後半に入った今、「研究推進だより」を発行することになりました。校内研修の内容や道徳関係の研修で学んだこと、お願したいことなどを、このだよりでお知らせしようと思っております。よろしくお願いいたします。

「私たちの道徳」を活用しましょう。

- 1 趣旨について
「私たちの道徳」は「心のノート」を全面改良したもので、生徒が道徳的価値について自ら考え、実際に行動できるようになることをねらいとして作成した道徳教育用教材です。
- 2 活用について
(1) 学校での活用
① 道徳の時間・・・導入・展開・終末での活用
② 学校の教育活動全体 (例) 朝の会や帰りの会、朝読書、掲示
各教科、総合的な学習の時間、特別活動
↓
(2) 家庭や地域での活用
(3) 生徒による自主的な活用

「各教科で「私たちの道徳」を活用してみよう。」

読もうなページを見つけるためには・・・

- 「私たちの道徳」に目を通して、読もうなページを探す。
- 各学年の「道徳全単元計画 別業」(別業は『一般教職員→教務部→H26 教務→01 H26 全教育計画 4月完成→年間指導計画(シラバス)→道徳・総合・特活→道徳の時間』にあります。)を見る。

※ 学年の授業に2人以上の生徒が関わっている場合は新巻して、すべての学年で同じように「私たちの道徳」を使用しましょう。

2学期中に1回は各教科の授業の中で「私たちの道徳」を使ってください。12月に各教科で使用状況を報告してもらう予定です。よろしくお願いいたします。

レッツ!道徳

新刊別冊付 平成26年10月16日

NO.8

もっと

近所の1学期! 研究授業に次ぐ研究授業の日々。大変お疲れ様でした。さあ夏休みです! 「別冊の生まれる道徳の時間の授業作り」にむけて、皆さんで確認して、県大会の指導案に反映させていきましょう!

対話を活性化させよう!

～子どもたちが出した意見を聞かして、道徳的価値を深めるための手立て～

1 全員やらかせよう。

- ◎ 自分の考えをワークシートに書く。(考えた機軸が書ける場合は書かせる。)
- ◎ 書いたことをもとにして、全員発言する。(ネームプレートで自分の考えを示す)

2 似た意見を分類・整理して板書→子どもに読ませよう! (板書に注目させてみる)

- 「みんなの意見を大きくまとめたら、□つぐらいにまとめられます。」
- 「自分とは違う意見の人についてみたいことはありませんか?」
- 「他の人の意見を聞いて思ったことや意見を言いました。」
- 「Aさんの意見について、どう思いますか?」
- 「Aという意見とBという意見が出たね。そのことをどう思いますか?」

少し自分の考えが変わりました。

いろんな意見があるな!

他者理解

やっぱり○○だと思います。

比較して考えさせよう!!!

3 意見がねらいとする道徳的価値に近づいてきたら量さげよう。

「でも、～するのは大切だけど、本当にできるのかな?」

人間理解

「ねらい」とすることを言っている見方は、

彼の方がよい。挙手しなくても、素直的に指名する!

吹き出しや図、イラストを使用し、伝えたいことをコンパクトにまとめるのも効果的です!

〈事例4〉 道徳だより、学級だより、学校だより（保護者・地域向け）

家庭、地域社会と連携し、地域の文化を共に創り、子供たちを育てていくという意識の下に、よりよい協力体制を築き上げていきましょう！



学校で取り組んでいることを積極的に発信し、家庭や地域との双方向の連携を深めましょう。

きらり

道徳通信 No. 2
 呉中央小学校
 H26.9.30

大切ないのち

先日、第3学年の道徳の時間に「生命尊重」をねらいとした学習をしました。

資料「おばちゃん、がんばれ」のあらすじ

ある日、主人公の「わたし」は、電話でおばちゃんのお腹に赤ちゃんができたことを知ります。自分は一人っ子なのに、いとこのたかちゃんには弟が妹ができることを、とてもうらやましく思い、はじめのうちは素直に喜ぶことができません。しかし、おばちゃんのお腹に手を触れたとき、赤ちゃんが『ぐるぐるっ』と元気な動いたことや、お母さんの育児日記を讀んで、自分もとても大切に思われていたことを知ります。そして、「わたし」は意いでおばちゃんに、「おばちゃん、おめでとう・・・。」と電話をして伝えます。

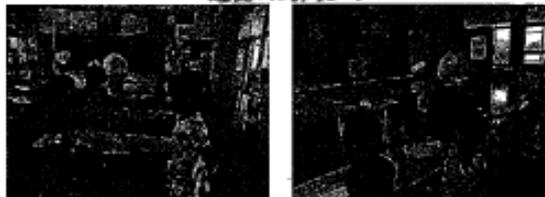
授業の前半では、「わたし」の気持ちを考え、その心境の變化に気付くことができました。そして後半では、おまのがからの手紙を讀み、自分がお腹にいるとき家族にとても大切に思われていたこと、生まれたとき家族みんながとても喜んでくれたことを知ることができました。なかには涙をボロボロ流す児童もいて、改めて家族の深い愛情や生命のありがたさを感じることもできたようでした。だんだん子ども達が大きくなるにつれ、ストレートに愛情を伝える機会も少なくなってくると思いますが、祈りにあふれて、それを伝えていくことで子ども達の心の安定が図られるのではないのでしょうか。3年生の保護者の皆様には、お忙しい中、愛情いっぱいのお手紙を書いていただき、本当にありがとうございました。きっと、子ども達の心の大きな「宝」になったことと思います。



(5・6年生)

PE (5年生)	今の自分のことを書きます
PF (6年生)	
PI8~16	※一律に讀んでいただき、アドバイスを受けてください。おまの方と話し合ったことを空欄に書きます。
PE2~25	読んだ後、PE5の余白に感想を書きます。

道徳の時間より



1年生「あわあわこぼす ちくちくこぼす」
 どんな言葉を書かれるといやな気持ち、うしろの気持ちになるか考えました。その後、友だちに「～がすごいね。」「～がんばっているね。」とふたつお言葉を伝えました。言われた人はとってもうれしそうなお顔をしていました。

2年生「森のともだち」
 こんにちは、おおかみからみんなが助けてくれたのに、自分もみんなを助けてあげました。その時の気持ちをこころに書いて発表しました。「みんなは助けてくれたのに、ぼくだけ助けてごめん。もうわがままや乱暴はしないよ。」

道徳だより

高次市立川地小学校
 平成26年7月18日
 NO. 3

楽しい夏休みを過ごしてください

さあ、いよいよわくわくドキドキ楽しみにしていた夏休みがやってきました。4日間、『元気な・有意義に』過ごしてほしいと願っています。家族の一人として手伝いなど自分のできることは積極的にがんばりましょう。また、地域の行事などに積極的に参加し、地域のひととかわかり、地域のよさをしっかり見つけましょう。

「わたしたちの道徳」の活用について

平成26年度から道徳教育用教材「わたしたちの道徳」が配布されました。「わたしたちの道徳」は、学校の教育活動はもちろんですが、家庭での生活や学校と家庭との連携の強化、地域での活動等に際しても有効に活用されることを趣意としています。夏休み中に「わたしたちの道徳」を持ち帰ります。読んで考えたり、自分の生活を通して、家族の一員としてできることを考え取り組んだり、夏休みを利用して家族の方からいろいろ教えてもらったりしてほしいと考えています。そこで、下記のページについては、取り組むように願っています。また、保護者の方にも感想を書いていただいたり、家族の方の思いを話していただいたりしたいと考えました。お忙しいとは思いますが、ご協力よろしくお願ひします。また、子どもたちには、下記以外にも興味のあるところは読んで、今の気持ち等を書いてもよいと願っています。長い夏休みですので、「わたしたちの道徳」をぜひ活用し、自分の生活等を見つめる機会にしてほしいと思います。「わたしたちの道徳」は、2学期初めに持たせてください。

(1・2年生)

PE (1年生)	今の自分のことを書きます。
PF (2年生)	
PE6 (1年生)	決めたあいさつができたら色をぬります。
PE7 (2年生)	※おまの方からあいさつの様子についての感想を書いてやってください。
PI42日(2年生)	手伝いましたときのことを思い出して書きます。(おまのうらの上の1か所でもいいです。)
PI43日(2年生)	※おまの方から夏休み中のお手伝いについての感想を書いてやってください。
PE4, 35	2年生は読んで、配布した用紙に感想を書きます。(1年生はどちらでもよいです)

保護者の方へ道徳の時間の様子を知らせることで、家庭でも話題にしてもらいましょう！

〈事例5〉 道徳教育に関する掲示板等



教室や校舎内などの環境を整え、児童生徒の豊かな心を育み、道徳的実践への意欲を高めましょう！



道徳学習日より「かえる通信」

学習内容を想いできるポスター

一年生学級では、「こころの木」に葉や花を貼っている。

学習した内容を常に振り返ることができる道徳的な環境づくりをしていきましょう！

道徳の時間で学習したことを残していきましょう!!



発達の段階を踏まえた掲示方法を工夫しましょう！



学んだことを全校のものにしていきましょう！

作成協力者一覧

所属	職名	氏名
呉市立呉中央小学校	教諭	浅木森文恵
大竹市立玖波小学校	教諭	久保 恵子
北広島町立新庄小学校	教諭	武本 圭子
三次市立川地小学校	教諭	高下 美恵
東広島市立高美が丘中学校	教頭	今野 豊
府中町立府中中学校	教諭	川西 昭彦
海田町立海田西中学校	教諭	野上 典子
福山市立城東中学校	教諭	谷本 昌宏
河内高等学校	教諭	川原 栄治
尾道商業高等学校	教諭	田崎 晶子
芦品まなび学園高等学校	教諭	藤井 佐枝
芦品まなび学園高等学校	教諭	井上 利予

※所属及び職名は、平成 27 年 3 月現在

引用・参考文献

- ・文部科学省（平成 20 年）「小学校学習指導要領解説 道徳編」
- ・文部科学省（平成 20 年）「中学校学習指導要領解説 道徳編」
- ・文部科学省（平成 21 年）「高等学校学習指導要領解説 総則編」
- ・文部科学省（平成 26 年）「『私たちの道徳』小学校 活用のための指導資料」
- ・文部科学省（平成 26 年）「『私たちの道徳』中学校 活用のための指導資料」
- ・広島県教育委員会（平成 27 年）「平成 27 年度 広島県教育資料」
- ・福岡県教育委員会（平成 25 年）「道徳教育実践ハンドブック（改訂版）」
- ・兵庫県教育委員会（平成 26 年）「指導資料『道徳の時間』の充実のために」
- ・広島県立教育センター（平成 26 年）「授業研究ハンドブック」
- ・千葉県教育総合教育センター（平成 21 年）「校内研究ガイドブック 授業力アップ」
- ・鹿児島県総合教育センター（平成 22・23 年度）「みんなで取り組み、学び合う授業研究」
- ・徳島県立総合教育センター（平成 20 年）「校内研修ハンドブック」
- ・岩手県立総合教育センター（平成 19 年度）「校内授業研究の進め方ガイドブック」

道徳教育の参考となるホームページ

- ・広島県教育委員会「豊かな心を育てる道徳教育コーナー」
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/12doutoku/>
- ・文部科学省「道徳教育」
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/doutoku/
- ・広島県立教育センター「学習指導案例集（小学校 道徳）」
<http://www.hiroshima-c.ed.jp/web/an/e/dou/index-dou.html>
- ・広島県立教育センター「学習指導案例集（中学校 道徳）」
<http://www.hiroshima-c.ed.jp/web/an/j/dou/index-dou.html>

